

◇インターネット論文術 M (開講単位数:2単位)

担当者:大場 博幸

充当科目コード : B101S0 (総合科目 I)
B102S0 (総合科目 II)
B103S0 (総合科目 III)
B104S0 (総合科目 IV)
B105S0 (総合科目 V)
B106S0 (総合科目 VI)

※各自の履修状況により指定してください。

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 1学年以上

◆授業概要 論文の書き方についての基本中の基本を講義します。これは基本ルールの授業であって、良い論文とか、論理的な論文の書き方というものではありません。論文とは何かといったことでもありません。論文の最低限のルールです。ですからこの授業では、最終的に簡単な論文を書いてもらいます。そこで論文のテーマを考えておいてください。テーマは何でもかまいません。ともかく自分が興味をもてるものがいいです。

◆学修到達目標 この授業では、論文の基本的なルールと作成法を身につけることを目指します。ですから、誰もが守るべき論文の作法を身についていただきます。それも最低限のルールですから、良い論文とか、論理的な論文の書き方というものではありません。論文とは何かといったことでもありません。論文の最低限のルールを覚えるのではなく、身につけることを目指します。

◆授業方法 メディア授業ですから、途中3回のチェックテスト(レポート)と最終論文の提出によって授業を進めます。最終論文では、最後の回で指示する形式で論文をだしていただきかなくではありません。論文の形式ルールを学ぶ授業ですので、自分の勝手ではなく、一定のルールに従った書き方が必要になります。しかし堅苦しいものではありません。

◆授業計画

授業内容		
1回	事前学修	ガイダンス:論文3原則、本の紹介 テキストの「まえがき」を読んでおいてください。
	事後学修	1章の1と2を読んで、この授業の考え方を整理してください。
2回	授業内容	リポートの書き方①:原稿用紙の使い方、資料の調べ方・探し方
	事前学修	1章の3節を読んで、文献の調べ方を理解しておいてください。
	事後学修	実際になにかの文献を調べてみましょう。
3回	授業内容	リポートの書き方②:辞典・事典・用語集、リポートの構造
	事前学修	ネット上の事典をいくつか調べてみましょう。
	事後学修	リポートの構造を実際のワードで書いてみましょう。
4回	授業内容	中身よりみた目:レイアウトと表記法、文章配置
	事前学修	論文のレイアウトにはいくつかあります。どれかの論文を調べてみましょう。
	事後学修	どれが読みやすいか、いくつか論文をダウンロードして見比べましょう。
5回	授業内容	わかりやすい文章にする3原則:無限半切、重複禁止、執拗通読
	事前学修	3章と4章を読んでおいてください。
	事後学修	わかりやすいとは何か、今日の授業の要点を箇条書きしてみましょう。
6回	授業内容	文献・資料の集め方①:二つの文献検索法、文献資料収集
	事前学修	文献検索は何度も繰り返します。まずは「やみくも」をやっておいてください。
	事後学修	やみくもで集めた論文の文献リストをみて同じ論文をピックアップしてください。
7回	授業内容	文献・資料の集め方②:アマゾン・国会・大学図書館の使いこなし
	事前学修	文献収集は、CiNiiだけではなく、通常のネット検索をやってみてください。
	事後学修	第1回目の文献リストを作成してください。
8回	授業内容	文献・資料の整理方法:文献読込法、論文ノート、情報整理
	事前学修	資料のためのカードを用意してください。京大式カードといいます。
	事後学修	実際に文献からノートを作ってください。
9回	授業内容	論文(卒論)の執筆手順:執筆計画の立て方、論構成と章構成の方策
	事前学修	6章を読んで、実際に自分の計画表をつくりましょう。
	事後学修	今回の授業を聞いてから、改めて自分の計画表を作り直しましょう。
10回	授業内容	注釈・引用・参考文献の示し方:近年型による示し方、巻末での表記
	事前学修	近年型と従来型の違いを、実際の論文で確かめておいてください。
	事後学修	JSTのサイトで文献表記法の細かいところを確認しておいてください。
11回	授業内容	論文論(よい論文とは):よい論文の3原則
	事前学修	7章と8章を読んで、論文とはなにかを考えてみてください。
	事後学修	自分の今書いている論文をみてみましょう。3原則にはまってていますか。
12回	授業内容	瀬戸際のテクニック:書式・論構成のテクニック
	事前学修	最後の「付論」二つを線を引きながら読んでおいてください。
	事後学修	自分の論文をプリントアウトして、校正をしてみましょう。

◆教科書 市販本『論文の書き方—わかりやすい文章のために』 小笠原喜康著 ダイヤモンド社 2007

※上記教科書は絶版のため、入手できない場合は参考書指定の市販本『最新版 大学生のためのレポート・論文術』を使用してください。

◆参考書(参考文献等) 市販本『最新版 大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康著 講談社現代新書 2018

◆成績評価基準 3回のチェックテスト(レポート)と最終論文で評価します。最終論文が出ていない場合は不可。なお最終論文は、形式、ルールをきちんと守っているかどうかで評価しますので、注意してください。

◆備考 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇日本大学を学ぶ—その120年の歴史—M（開講単位数:2単位）

担当者:鍋本 由徳

充当科目コード : B101S0 (総合科目 I)

B102S0 (総合科目 II)

B103S0 (総合科目 III)

B104S0 (総合科目 IV)

B105S0 (総合科目 V)

B106S0 (総合科目 VI)

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1学年以上

◆授業概要 本講義の目的は、日本大学の歴史を、その創立から現代に至るまでを学修し、本学がいかにして日本最大の総合大学へと成長したかを知ることにある。ただし、日本大学という一組織の歴史をたどるのではなく、広く日本の近現代史の流れの中に本学を位置付け、本学の成長・発展の過程を通じて、近現代史を学ぶというのがねらいである。また、講義では教育機関としての大学のみでなく、時代ごとの学生生活の様相を、可能な限り学生の視点からとらえるよう努める。

◆学修到達目標 1. 日本大学がどのような歴史をたどったのかを説明できるようにする。2. 近現代史の流れのなかで、社会の要請と日本大学との関係を説明できるようにする。3. 日本大学・日本大学通信教育部で学ぶ自身のあり方を主体的に考える姿勢を身につける。

◆授業方法 メディアを視聴しながらノートを作成する。適宜実施される自己点検や理解度チェックで理解度を確認し、理解が不足していると判断した箇所は、視聴を増やし、ノートを補充する。

◆授業計画

回	授業内容	第1章 本講義を学修するにあたって
1回	事前学修	シラバスを熟読し、本講義の流れと目的などを把握する。
	事後学修	各回でどのような内容を学ぶのか、目的と計画をまとめる。
2回	授業内容	第2章 日本大学120年の歩みI
	事前学修	日本大学ホームページなどで明治時代から戦前・戦中までの日本大学を調べる。
	事後学修	時代の画期とともに大学がどう変化したのかをまとめる。
3回	授業内容	第3章 日本大学120年の歩みII
	事前学修	日本大学ホームページなどで戦後の日本大学を調べる。
	事後学修	戦後の新制大学としての日本大学についての概要まとめる。
4回	授業内容	第4章 日本法律学校の誕生
	事前学修	幕末の不平等条約と日本の法整備の流れを調べる。
	事後学修	日本法律学校は何を目的につくられたのかをまとめる。
5回	授業内容	第5章 明治期の学園風景
	事前学修	明治時代の高等教育（今の「大学」）での学生生活について調べる。
	事後学修	日本法律学校の特徴についてまとめる。
6回	授業内容	第6章 大学令と日本大学
	事前学修	大正から昭和初期の日本の情勢と教育との関わりを調べる。
	事後学修	専門学校から大学へと昇格した日本大学の拡張状況をまとめる。
7回	授業内容	第7章 戦時体制下の学徒
	事前学修	太平洋戦争期の大学生生活について調べる。
	事後学修	軍隊と学生との関わりについて、日本大学での事例をまとめる。
8回	授業内容	第8章 高度経済成長と大学の大衆化
	事前学修	戦後教育改革の概要を調べる。
	事後学修	日本大学と学生との関係を調べ、学園紛争の前提が何かをまとめる。
9回	授業内容	第9章 大学紛争とその後の日本大学
	事前学修	1960年代の社会運動・学生運動がどのようなものだったかを調べる。
	事後学修	日本大学での紛争と他大学の紛争との質的な違いを考え、まとめる。
10回	授業内容	第10章 日本大学とスポーツ・文化
	事前学修	日本大学とスポーツとの歴史を日本大学ホームページなどで調べる。
	事後学修	保健体育審議会の歴史と現在の取り組みとの違いを考え、まとめる。
11回	授業内容	第11章 活躍する日大人
	事前学修	澤野民治・佐藤運雄・木村秀政・白川義員の出身学部と活動分野を調べる。
	事後学修	各人物が活動を通して、大学へどのような貢献をしたのかをまとめる。
12回	授業内容	第12章 通信教育部の歩み
	事前学修	日本における大学通信課程の設立事情を調べる。
	事後学修	自分が通信課程で何を学ぶのか、日本大学の学生としての学びを考える。

◆教科書 特になし。

◆参考書(参考文献等) 必要に応じてディスカッションボードで紹介する。

◆成績評価基準 メディア授業受講状況（質疑応答、ディスカッション）30%，理解度チェック30%，最終リポート試験40%。

◆備考 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇歴史学MA(開講単位数:2単位)

担当者:高綱 博文・須江 隆・粕谷 元・舟橋 正真

充当科目コード : B11100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1学年以上

◆授業概要 本講義の目的は、日本・中国・イスラームに生きた人物を通して、歴史学のあり方を学んでいきます。さまざまな地域に生きた人物を通して異なる時代を理解し、他者を理解することで、自分たちが自明に思っていることを問い合わせ直し、自分たちを多様な視点から見つめ直してみる機会を与えてくれます。歴史に問い合わせて、自分自身の生き方の多様な可能性を探究していきます。

◆学修到達目標 本講義の受講を通して、人物の活動を通して地域と時代を説明できるようにし、歴史学の方法の多様性から生み出されるさまざまな解釈を知り、自身の生き方やあり方を見つめ直すことができるようになります。

◆授業方法 本講座を受講するに当たり、シラバスに該当する人物について通信教育教材『歴史学 B11100』によって学修してておくこと。

◆授業計画

回	授業内容	明治天皇—国民の父として
1回	事前学修	『歴史学』第7章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
2回	授業内容	乃木希典—戦没者家族の涙とともに
	事前学修	『歴史学』第8章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
3回	授業内容	石田伝吉—理想の村を求めて
	事前学修	『歴史学』第9章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
4回	授業内容	ムスタファ・ケマル・アタテュルクートルコの「文明化」のために
	事前学修	『歴史学』第19章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
5回	授業内容	ベディユズザマン・サイド・ヌルスイー—世俗化に抗して
	事前学修	『歴史学』第20章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
6回	授業内容	セイイド・ベイーイスラームの宗教改革者?
	事前学修	『歴史学』第21章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
7回	授業内容	岸田吟香・荒尾精—東亜同文書院の源流
	事前学修	『歴史学』第10章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
8回	授業内容	内山完造の中国社会体験
	事前学修	『歴史学』第11章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
9回	授業内容	上海日本人引揚者たちのノスタルジー
	事前学修	『歴史学』第12章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
10回	授業内容	蘇舜欽—乱痴氣騒ぎのつけ
	事前学修	『歴史学』第13章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
11回	授業内容	方臘—宋王朝を震撼させた男
	事前学修	『歴史学』第14章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。
12回	授業内容	林二十三娘—神となった巫女
	事前学修	『歴史学』第15章を学修しておくこと。
	事後学修	授業内容のポイントを再確認しておくこと。

◆教科書 通材『歴史学 B11100』通信教育部教材（教材コード 000393）

◆参考書(参考文献等) メディア授業「歴史学」の各章に掲載

◆成績評価基準 メディア授業受講状況（質疑応答、ディスカッション）25%，理解度チェック25%，最終リポート試験50%

◆法学 MA (開講単位数:2単位)

担当者:松島 雪江・小野 健太郎・川又 伸彦

充当科目コード : B11500

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1学年以上

◆授業概要 社会規範としての法がどのように成り立っているのかを知り、法学の基礎的な概念や理論背景を把握しながら、憲法、刑法、民法などの法領域と関係させつつ、法的なものの考え方を身につけるための講義。

◆学修到達目標 1 憲法、刑法、民法をはじめとする法の基礎的概念や理論背景を理解する。 2 そうした基礎概念に基づき、法が実社会でどのように生かされているのかを知る。 3 法に特有な「正しさを導く方法、正しさの考え方」を理解する。

◆授業方法 メディア授業。該当箇所を視聴した上で、各章末の確認テスト、5章ごとにある理解度チェックを受け、16章「答案の作成技術」を十分把握した上で、最終レポートを作成する。

◆授業計画

回数	授業内容	なぜ法を学ぶのか	
		事前学修	事後学修
1回	法と強制	教科書 法学1の1章「なぜ法を学ぶのか」をあらかじめ読んでおく。 「国民が意識を持って自ら学ぶ姿勢が必要」である理由を説明できるようにする。	
2回	法と強制	教科書 法学1の2章5節「法と強制」をあらかじめ読んでおく。 「国家権力を背景とした強制力を育てている」のはなぜか、説明できるようにする。	
3回	法と道徳	教科書 法学1の2章「法と道徳」をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	
4回	法の歴史	教科書 法学1の3章「法の歴史」をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	
5回	法源	教科書 8章「法源」をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	
6回	法の構造	教科書 法学1の4章「法の構造」をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	
7回	法の解釈と適用	教科書 法学1の9章「法の適用と解釈」をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	
8回	法の効力	実定法と自然法の区別をする。 刑法が自然法を採用していることを説明できるようにする。	
9回	法的思考	教科書 法学1の11章5節「法的思考の特殊性」をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	
10回	法の現代的展開	教科書 法学1の11章1～4節をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	
11回	生活の中の刑法	自分が知っている犯罪類型（例：窃盗罪）を書き出してみよう。 刑法がどんな役割をしているのか、三つ以上説明できるようにする。	
12回	法の担い手としての市民	市民はどんな形で法発動を促すことができるか、考えてみる。 法の恩恵を受けるためには、積極的な取り組みが必要であることを説明できるようにする。	
13回	民法典の形成と特色	教科書 法学1の3章3～6節、第7章1節をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	
14回	権利・義務と民法における人間	教科書 法学1の5章「権利概念」をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	
15回	生活の中の憲法	教科書 法学2（日本国憲法）第1章、第5章、271～286頁、297～301頁、327～331頁をあらかじめ読んでおく。 教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。	

◆教科書 通材『法学 B11500』通信教育教材（教材コード 000515）

◆参考書(参考文献等) **市販本**『新法学入門』 山川一陽・船山泰範 編著 弘文堂
市販本『刑法を学ぶための道案内』 船山泰範著 法学書院

◆成績評価基準 全ての章の視聴を前提とした上で、理解度チェック（30%）と最終レポート（70%）により評価する。

◇政治学MA(開講単位数:2単位)

担当者:関根 二三夫

充当科目コード : B11700

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1学年以上

◆授業概要 基礎教育としての講義を行います。政治学の変遷、政治の概念、政治の本質、政治権力、国家、議会政治、立法部と行政部（議院内閣制）、立法部と行政部（大統領制）、選挙、政党、圧力団体、政治と行政について学びます。

◆学修到達目標 議会や大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会や個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々にとって身近な現象であることを理解できるようにします。

◆授業方法 講義形式で行います。この講義においては、動画、静止画、音声などを活用し、また、理解度チェックを行うことにより、受講生の政治に関する多角的な理解を深めていきます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

◆授業計画

回	授業内容	内容
1回	授業内容	政治学の変遷
	事前学修	参考書の第1章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
2回	授業内容	政治の概念と本質
	事前学修	参考書の第1章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
3回	授業内容	政治権力
	事前学修	テキストの第1章第2節及び参考書の第2章第4節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
4回	授業内容	国家
	事前学修	参考書の第3章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
5回	授業内容	議会政治
	事前学修	参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
6回	授業内容	立法部と行政部
	事前学修	テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
7回	授業内容	選挙—選挙制度の原則
	事前学修	テキストの第3章第3節及び参考書の第5章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
8回	授業内容	選挙—選挙区及び代表選出の形態
	事前学修	テキストの第3章第3節及び参考書の第5章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
9回	授業内容	政党—特徴及び形態
	事前学修	テキストの第3章第4節及び参考書の第4章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
10回	授業内容	政党—機能及び問題点
	事前学修	テキストの第3章第4節及び参考書の第4章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
11回	授業内容	圧力団体
	事前学修	テキストの第3章第5節及び参考書の第4章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
12回	授業内容	政治と行政
	事前学修	テキストの第1章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。

◆教科書 通材『政治学 B11700』通信教育教材（教材コード 000279）

◆参考書(参考文献等) 市販本『教養政治学』岩井泰信・黒川貢三郎・関根二三夫他著 南窓社

◆成績評価基準 試験 60 %, 平常点 40 % ※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視します。

◆経済学 MA(開講単位数:2単位)

担当者:前野 高章

充当科目コード : B11800

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1学年以上

◆授業概要 このメディア授業では、経済学の基本的な知識を習得するために、経済学の基礎理論や基本的な考え方を学修する。講義は主に、市場を構成する経済主体の経済行動を分析するミクロ経済学に重点を置き、市場とは何か、そして、消費者および生産者の経済行動について講義を行う。

◆学修到達目標 この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、ミクロ経済学の基礎理論の学修をもとに、ミクロ経済学の「基礎知識」と「経済学的な考え方」を修得することを目的とする。また、現実の経済のメカニズムを読み解き、経済の抱えている諸問題を経済学的に理解することができるようになることを目標とする。

◆授業方法 インターネットを通じてメディア教材から学修をする。学修を円滑に進めるために、各回講義の要点をノートにまとめておくことを強く求める。経済学分野の科目を履修する予定のある学生は、専門科目等を受講する前に本講義を受講することを強く勧める。

◆授業計画

	授業内容	経済学とは何か
1回	事前学修	テキスト、参考書などから経済学とはどのような学問かを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
2回	授業内容	経済学の研究の進め方
	事前学修	テキスト、参考書などから経済学の分野について確認する。
3回	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	資本主義経済と社会主義経済
4回	事前学修	テキスト、参考書などから資本主義経済と社会主義経済の特徴を確認する。
	事後学修	第1回から第3回の内容をノートで復習をする。
5回	授業内容	消費者の行動基準
	事前学修	テキスト、参考書などから消費者行動について確認する。
6回	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	無差別曲線と消費者余剰の法則
7回	事前学修	テキスト、参考書などから無差別曲線と消費者余剰について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
8回	授業内容	財の所得効果・代替効果
	事前学修	テキスト、参考書などから所得効果と代替効果について確認する。
9回	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	生産関数
10回	事前学修	テキスト、参考書などから生産関数について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
11回	授業内容	等量曲線・生産費の理論
	事前学修	テキスト、参考書などから生産者行動について確認する。
12回	事後学修	第7回から第9回の内容をノートで復習をする。
	授業内容	平均費用・限界費用と最適生産量
13回	事前学修	テキスト、参考書などから費用の概念について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
14回	授業内容	生産者余剰と限界生産力均等の法則
	事前学修	テキスト、参考書などから生産者余剰について確認する。
15回	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	最大利潤と個別供給曲線
16回	事前学修	テキスト、参考書などから生産者余剰について確認する。
	事後学修	第10回から第12回の内容をノートで復習をし、これまでまとめたノートを復習し、各回での重要なポイントを整理する。

◆教科書 市販本『経済学』瀬川浩・田村和彦編著 桜門書房

◆参考書(参考文献等) 通材『経済学 B11800』通信教育教材(教材コード 000450)

市販本『ミクロ経済学』(第3版) 伊藤元重著 日本評論社 2018年

◆成績評価基準 平常点60% (リポート形式の理解度チェック: 40%, メディア授業の受講状況: 20%) と最終試験40%による総合評価とする。ただし、最終試験を受けていることが単位修得の条件となる。

◆心理学 MA(開講単位数:2単位)

担当者:池見 正剛

充当科目コード : B12100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1学年以上

◆授業概要 心理学は、心の働きを科学的に探究する学問であるが、最近では安易な心理テストや、科学的裏付けが不十分なインターネット上の記事が散見される。本授業では、アカデミックな心理学の基礎知識を習得するとともに、人間の心理と行動を心理学の目で新たに捉え直すことを狙いとする。そして心理学の実験や現象を参考にしながら、心理学的な問題解決能力を習得することを目標とする。

◆学修到達目標 心理学の様々な領域の専門用語と理論の意味について、自分の言葉で説明できる。心理学の知識をもとに、客観的、科学的に人間の行動を理解し、説明することができる。心理学的という科学的な視点から、ある程度、現実の社会問題についての議論に参加できる。生涯に渡って、心理学をはじめとした人文・社会科学などの学間に興味を持ち、自ら学ぶ態度を持ち続ける。

◆授業方法 インターネットを利用して各自ノートを取りながら講義を受ける。また各章の最後にある自己点検と全3回の理解度チェックのテスト、および最終テストを必ず受けるようにする。また下記の参考書の欄に挙げる「心理学概説」を用意するなどして、授業計画の事前学修に指示された箇所を予習しておくことが望ましい。メディア授業で学修するにあたっては、ポータルサイトの『お知らせ』に掲載されている【メディア授業受講予定の皆様へ】メディア授業受講に際して」及び「メディア授業学修マニュアル」を再度確認し、十分理解してから学修に取り組んではほしい。また「受講期間」や「提出期限」などが設定されているので、「お知らせ」の「授業計画」は、プリントアウトなどして、常に確認できるようにしておくこと。

◆授業計画

回	授業内容	心理学の定義と歴史 現代心理学が精神の哲学的分析からどう離脱し、科学的分析へと発展していったか？
		事前学修 「心理学概説」のp.1~8を読んでおく事が望ましい。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
回	授業内容	現代心理学のアプローチ 科学的方法とは、自然観察、調査、相関的研究、実験
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.8~15をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
回	授業内容	心の生物学的基礎 神経細胞、中枢神経系
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.17~34をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検と理解度チェック1のテストを受ける。
回	授業内容	感覚I 感覚様相の共通属性、感度を測る方法と実際、感覚の符号化、視覚
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.55~57, 66~69をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
回	授業内容	感覚II 聴覚、嗅覚、触覚、味覚
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.73をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
回	授業内容	知覚I 知覚とは何か、注意、知覚的体化と定位
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.57~60をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
回	授業内容	知覚II 認識、抽象化、知覚の恒常性
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.64~66, 69をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検と理解度チェック2のテストを受ける。
回	授業内容	発達 発達とは何か、発達の一般的特徴、身体や運動機能の発達、ピアジェの発達理論、他
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.155~167をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
回	授業内容	記憶I 記憶を考える上での3つの視点、感覚記憶、作業記憶
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.75~82をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
回	授業内容	記憶II 作業記憶から長期記憶へ、長期記憶、感情と記憶、潜在記憶、多様な記憶機構
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.82~91をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
回	授業内容	知覚の表象(1)―知覚的表象― 空間的表象vs順序的表象、メンタルイメージ、順序的表象
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.105~108をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
回	授業内容	知覚の表象(2)―意味的表現― 言語的情報の記憶、知覚的・意味的表象の保持、命題的表象、スキーマ
		事前学修 前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」のp.95~102をよく読んでおく。
		事後学修 学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検と理解度チェック3のテストを受ける。 最終テストに向けて全講義内容を振り返る。

◆教科書 特になし

◆参考書(参考文献等) 市販本『心理学概説―心理学のエッセンスを学ぶ―』 厳島行雄・横田正夫編 啓明出版

◆成績評価基準 最終試験(60%)、理解度チェック(40%)。これらの点数を視聴履歴と照らし合わせながら総合的に評価する。

◇英語 I MA(開講単位数:1単位)

担当者:猪野 恵也

充当科目コード : C10100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 1学年以上

◆授業概要 話す、聞く、書く、読むの四技能のうち大学での学修においてはどんな学問ジャンルであれ、特に英文読解力が求められる。そこでまず重要な英文法事項を復習あるいは十分修得し、その上で英文法を駆使しながら短編を読む。

◆学修到達目標 1. 重要な英文法の基礎を修得できる。2. 短編を読みながら、英文法の知識を駆使し、英文の構造を把握できるようになる。

◆授業方法 メディア、講義用ディスカッションボード、質疑応答を利用しての英文法の学修とテキスト読解。

◆授業計画

授業内容		
1回	事前学修	品詞及び句と節。 英文法書にて各品詞、句、節について学修する。
	事後学修	英文法書にて各品詞、句、節を含んだ複数の例文をチェックする。
2回	授業内容	文型
	事前学修	英文法書にて五つの文型について学修する。
	事後学修	英文法書にて一つの文型につき、複数の例文をチェックする。特にSVC、SVOCに注意。
3回	授業内容	不定詞と動名詞。
	事前学修	重要な文法事項なので不定詞の各用法、動名詞について予め学修する。
	事後学修	不定詞、動名詞についての例文を複数チェックする。特に意味上の主語に注意すること。
4回	授業内容	分詞
	事前学修	英文読解に欠かせない文法事項なので用法と例文を確認しておく。
	事後学修	分詞の使い分け、前置修飾と後置修飾に留意して例文を複数確認する。
5回	授業内容	分詞構文
	事前学修	分詞構文は副詞句になるので、句について復習しながら例文を確認しておく。
	事後学修	分詞構文の形、作り方、意味、意味上の主語に注意しながら例文を複数確認する。
6回	授業内容	関係詞
	事前学修	関係代名詞、関係副詞のそれぞれの種類、違いについて理解しておく。
	事後学修	関係代名詞は形容詞節を成し関係副詞は副詞節を成すことに留意して例文を確認。
7回	授業内容	Goodbye, My Brother 読解 p. 1-p. 5.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして予め英文に目を通しておく。
	事後学修	品詞、句、節について復習する。あわせて他の文法事項も確認する。音読もする。
8回	授業内容	Goodbye, My Brother 読解 p. 5-p. 11.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして予め英文に目を通しておく。
	事後学修	五文型について復習する。あわせて他の文法事項も確認する。音読もする。
9回	授業内容	Goodbye, My Brother 読解 p. 11-p. 16.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして予め英文に目を通しておく。
	事後学修	不定詞と動名詞について復習する。あわせて他の文法事項も確認する。音読もする。
10回	授業内容	Goodbye, My Brother 読解 p. 16-p. 22.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして予め英文に目を通しておく。
	事後学修	分詞について復習する。あわせて他の文法事項も確認する。音読もする。
11回	授業内容	Goodbye, My Brother 読解 p. 22-p. 25.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして予め英文に目を通しておく。
	事後学修	分詞構文について復習する。あわせて他の文法事項も確認する。音読もする。
12回	授業内容	Goodbye, My Brother 読解 p. 25-p. 28.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして予め英文に目を通しておく。
	事後学修	関係詞について復習する。あわせて他の文法事項も確認する。音読もする。

◆教科書 通材『英語 I C10100』 通信教育教材 (教材コード 000019)

※本教材は、平成31年度通信教育教材の旧教材です。注意してください。

◆参考書(参考文献等) 各自の英語力に合った英文法書(一冊で良いので中型のものが望ましい)、『プログレッシブ英和中辞典』(小学館)、『ジーニアス英和辞典』(大修館書店)等中型で例文が豊富な英和辞書。

◆成績評価基準 メディア授業の受講状況(各回を必ず2回以上視聴すること)と2回の試験(リポート試験)により総合的に評価する。

◇英語ⅡMA(開講単位数:1単位)

担当者:鈴木 孝

充当科目コード:C10200

配当学科:全学科・専攻

配当学年:1学年以上

◆授業概要 Susan Elizabeth Hill の “How Soon Can I Leave” を12のセクションに分け、それぞれのセクションの英文を用いて、名詞、動詞、形容詞などの品詞の区別、文型や修飾関係などの文構造、およびその他の文法、語法についての細かな説明を繰り返し行っていく。その理解を深めるために辞書の利用を随時促していく。

◆学修到達目標 1. 英文の構造を意識し、その構造通りに英文を読んでいく練習を積むことによって、「初めて目にする英文でも辞書さえあれば正確に読める力」を身につけることができる。2. その力をを利用して文学作品を鑑賞する楽しみを感じることができる。

◆授業方法 メディアを利用してのテキスト読解。

◆授業計画

1回	授業内容	テキスト 1ページ目から2ページ6行目まで。 関係代名詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
2回	授業内容	テキスト 2ページ7行目から3ページ11行目まで。 動名詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
3回	授業内容	テキスト 3ページ12行目から4ページ6行目まで。 分詞構文などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
4回	授業内容	テキスト 4ページ7行目から5ページ11行目まで。 第2文型の用法などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
5回	授業内容	テキスト 5ページ12行目から6ページ25行目まで。 強調構文などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
6回	授業内容	テキスト 6ページ26行目から8ページ4行目まで。 不定詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
7回	授業内容	テキスト 8ページ5行目から9ページ13行目まで。 徒属接続詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
8回	授業内容	テキスト 9ページ14行目から10ページ26行目まで。 過去分詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
9回	授業内容	テキスト 10ページ1行目から12ページ2行目まで。 感嘆文などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
10回	授業内容	テキスト 12ページ3行目から13ページ13行目まで。 等位接続詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
11回	授業内容	テキスト 13ページ14行目から14ページ27行目まで。 受動態などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
12回	授業内容	テキスト 14ページ28行目から16ページ3行目まで。 知覚動詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。

◆教科書 通材『英語Ⅱ C10200』通信教育教材 (教材コード000020)

※本教材は、平成31年度通信教育教材の旧教材です。ご注意ください。

◆参考書(参考文献等) 英和辞典(語法の説明や例文が豊富なもの), 文法書(各自使いやすいと思えるもの)

◆成績評価基準 メディア授業の受講状況(ディスカッションボードへの書き込み等含む・10%), 理解度チェック(1~4各10%, 計40%), 及びインターネットを利用しての試験(リポート形式・50%)による総合的な評価。

◇英語ⅢMA（開講単位数：1単位）

担当者：真野 一雄

充当科目コード：C10300

配当学科：全学科・専攻

配当学年：2学年以上

◆授業概要 LyndとRusselの随筆という読み物を通して、正確な構文解釈ができるように文法事項の説明に力点が置かれている。

◆学修到達目標 文法事項をよく理解し、正しい構文解釈ができるで正確な日本語訳ができるようになる。合わせて随筆の面白さを鑑賞できるようにする。

◆授業方法 インターネットでの視聴により、英文の読解をする。解説を聞き、英文の構造を理解する。

◆授業計画

回数	授業内容	概要
1回	授業内容	<i>Forgetting (1) (p.1, I.6-I.26)</i>
	事前学修	5文型を確認しておく。
2回	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
	授業内容	<i>Forgetting (2) (p.1, I.27-p.2, I.16)</i>
3回	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4回	授業内容	<i>Forgetting (3) (p.2, I.17- p.3,I.12)</i>
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
5回	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
	授業内容	<i>Forgetting (4) (p.3, I.13-p. 4, I.12)</i>
6回	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
7回	授業内容	<i>Knowledge and Wisdom (1) (p.6, I.4- p.7,I.4)</i>
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
8回	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
	授業内容	<i>Knowledge and Wisdom (2) (p.7, I.5- I.19)</i>
9回	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10回	授業内容	<i>Knowledge and Wisdom (3) (p.7, I.20- p.8,I.15)</i>
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
11回	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
	授業内容	<i>Knowledge and Wisdom (4) (p.8, I.16- p.9,I.2)</i>
12回	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
	授業内容	<i>Knowledge and Wisdom (5) (p.9, I.3- p.10,I.2)</i>
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
	授業内容	<i>Knowledge and Wisdom (6) (p.10, I.3- I.20) + 報告課題2 提出</i>
	事前学修	<i>Knowledge and Wisdom</i> 全体を通読し、英文構造をよく理解する。
	事後学修	<i>Knowledge and Wisdom</i> 全体を復修し、英文構造をよく確認する。

◆教科書 通材『英語III C10300』通信教育教材（教材コード 000021） なくても受講可

◆参考書(参考文献等) 市販本『英文法解説（改訂3版）』 江川泰一朗著 金子書房

◆成績評価基準 2回の報告課題の提出を条件に、その2回の報告課題に受講(視聴)回数を加味して評価する。

◇英語IVMA(開講単位数:1単位)

担当者:市川 泰弘

充当科目コード : C10400

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 英語会話にしても英作文にしても、重要となるのは表現力であり。例えばHe was served on hand and foot. のhand and footが「必要なものの全て」を意味することをどれだけの学生が知っているだろうか。この講義ではスピーキング・ライティングに重要な基本事項を確認しながら、英語の母国語話者ではない日本人が間違えやすい表現に触れ、英語のNative speakersが日常使う表現のニュアンスの違いを理解し、最も使用頻度が高い表現を学習していく。

◆学修到達目標 この講義の目標は、1) 英語を母語としない日本人が間違えやすい表現を理解し、その使い方・ニュアンスの違いを理解することによって自然な英語表現を習得し、使えるようになることができる、2) 最も使用頻度が高く、アカデミックライティングに使用する表現を理解・習得し、使えるようになることができる、3) パラグラフライティングの基本を理解し、簡単なパラグラフが書けるようになることである。

◆授業方法 テキストの各課の最初にあるダイアローグを読み、そこで扱われる表現を確認した後、メディア授業を受けてください。エクササイズを行い、解説を聞いた後にテキストのCommon Errorsを読み直し、間違えた表現をまとめるようにしてください。パラグラフライティングについてはメディア授業でその書き方を学習した後、タスクシートで演習を行い、パラグラフの書き方の基本をチェックするようにしてください。

◆授業計画

	授業内容	基本的な動詞の使い方【1】
1回	授業内容	Unit 1 のエクササイズを予習する。
	事前学修	Common Errors の説明で復習をする。
2回	授業内容	パラグラフの基本
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
3回	授業内容	基本的な動詞の使い方【2】
	事前学修	Unit 2 のエクササイズを予習する。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
4回	授業内容	時間軸でパラグラフを構成する
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
5回	授業内容	動詞+名詞句の使い方【1】
	事前学修	Unit 3 のエクササイズを予習する。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
6回	授業内容	重要度の順でパラグラフを構成する
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
7回	授業内容	動詞+名詞句の使い方【2】
	事前学修	Unit 4 のエクササイズを予習する。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
8回	授業内容	空間秩序でパラグラフを構成する
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
9回	授業内容	間違いやすい動詞の使い方【1】
	事前学修	Unit 5 のエクササイズを予習する。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
10回	授業内容	メインアイデアを補う：個人的な経験を利用する
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
11回	授業内容	間違いやすい動詞の使い方【2】
	事前学修	Unit 6 のエクササイズを予習する。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
12回	授業内容	メインアイデアを補う：事実と引用を利用する。
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。

◆教科書 通材『英語IV C10400』 通信教育教材 (教材コード 000371)

◆参考書(参考文献等) 『Longman Dictionary of Common Errors』

◆成績評価基準 メディア授業の受講状況を確認しながら、2回のリポートを中心に総合的に評価を行う。従って、課題リポートは その提出内容をしっかりと理解し、提出することが必須条件となる。

◆英語基礎 MA(開講単位数:1単位)

担当者:小澤 賢司

充当科目コード:C10600

配当学科:全学科・専攻(但し、文学専攻(英文学)を除く)

配当学年:1学年以上

◆授業概要 本授業では、今後の英語学修の土台となる「基礎・基本」を学びます。前期にあたる「英語基礎MA」では、英語の「品詞」を中心に学修していきます。いかなる学修においても「基礎・基本」はとても重要です。これを疎かにするとその後の「伸び」はあまり期待できません。本授業で扱う内容は中学卒業程度の文法事項および英文ですが、それらは決して「楽」や「易」とイコールではありません。この点には十分に留意して学修に臨んでください。

◆学修到達目標 無機質な暗記から脱却し、理解中心の学修をおこなうことで、英語を「使えるようにする」ことを目標にしています。よって、学修した内容を「実際に活用する」ことを心がけてください。本授業では、「徹底した復習」が求められます。ここでいう「徹底した復習」とは、前回の復習ではなく、前回までの復習を指します。例えば、第5回の授業の次週には、第1回から第5回まで全ての内容の復習が必要ということです。

◆授業方法 授業計画にある各品詞を1つ1つ丁寧に解説し、それらが用いられた英文とともに学修することで適切な理解を促します。質問等は「ディスカッションボード」もしくは「質疑応答」にて回答しますので、そちらに質問を投稿してください。必要な情報(説明・英文等)は適宜ノートに取るようにしましょう。

◆授業計画

回	授業内容	第1章 「品詞」と「文法」／Q and A
1回	事前学修	本授業のシラバス全体を一読しておくこと。
	事後学修	「品詞」と「文法」の違い、さらには「4大品詞」を正しく理解しておくこと。
2回	授業内容	第2章 動名詞／英文問題
	事前学修	第1回で学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「動名詞」の働きを正しく理解しておくこと。
3回	授業内容	第3章 前置詞
	事前学修	第2回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「前置詞」の働きと各前置詞の語彙イメージを正しく理解しておくこと。
4回	授業内容	第4章 不定詞 その1／Q and A
	事前学修	第3回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「不定詞」の【名詞的用法】の働きを正しく理解しておくこと。
5回	授業内容	第5章 不定詞 その2／英文問題
	事前学修	第4回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「不定詞」の【形容詞的用法】と【副詞的用法】の働きを正しく理解しておくこと。
6回	授業内容	第6章 辞書に関するあの話この話
	事前学修	第5回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	辞書の使い方を理解しておくこと。
7回	授業内容	第7章 分詞
	事前学修	第6回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「分詞」の働きを正しく理解しておくこと。
8回	授業内容	第8章 動名詞 vs. 現在分詞／英文問題
	事前学修	第7回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「分詞」と「動名詞」の違いを正しく理解しておくこと。
9回	授業内容	第9章 不定詞の応用／英文問題／Q and A
	事前学修	第8回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「不定詞」の各種応用系を正しく理解しておくこと。
10回	授業内容	第10章 発音に関するあの話この話
	事前学修	第9回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	英語の発音の注意点等を再度確認しておくこと。
11回	授業内容	第11章 接続詞
	事前学修	第10回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「接続詞」の働きを正しく理解しておくこと。
12回	授業内容	第12章 関係代名詞 その1
	事前学修	第11回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「関係代名詞」の基本を正しく理解しておくこと。
13回	授業内容	第13章 関係代名詞 その2
	事前学修	第12回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	「関係代名詞」全体を正しく理解しておくこと。
14回	授業内容	第14章 助動詞
	事前学修	第13回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	各種「助動詞」を正しく理解しておくこと。
15回	授業内容	第15章 英語を使おう!
	事前学修	第14回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事後学修	再度、全ての学修内容を復習しておくこと。

◆教科書 特になし

◆参考書(参考文献等) 市販本『英文法ビフォーアフター(普及版)』 豊永彰著 南雲堂

市販本『一億人の英文法』 大西泰斗・ポール・マクベイ著 東進ブック

市販本『ジーニアス総合英語』 中邑光男・山岡憲史・柏野健次 大修館

◆成績評価基準 受講状況、理解度チェック、最終リポート等で総合的に評価します。報告課題及び最終リポートはMicrosoft Office Wordで作成し、提出すること。表計算ソフトやメモ帳等で作成(提出)しないこと。

◇保健体育講義 I M(開講単位数:1単位)

担当者:高橋 正則・水落 文夫

充当科目コード:H10100

配当学科:全学科・専攻

配当学年:1学年以上

◆授業概要 近年、超高齢化社会を向かえているわが国の平均寿命は、年々上昇しているものの、健康寿命との差は依然として縮まらない傾向が続いている。平均寿命と健康寿命の差は約10年前後であり、その差を埋めるためには、自立して生活できる健康な身体を積極的に獲得する必要がある。そこで、健康・体力に関する情報に日頃から関心を向け、自身の健康維持・増進を目指した生活習慣を考える。

◆学修到達目標 生涯を通じて最も大切な健康とは何か、また、健康・体力の維持増進のために何が必要かについて、基本的な知識を習得することで、自らの生活習慣に結びつけることができるようになる。

◆授業方法 この授業は、資料をスクリーンに提示しながら、講義形式で進める。

◆授業計画

	授業内容	現代社会と健康：現代社会と健康の関連を説明する。
1回	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報をておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ、理解しておくこと。
2回	授業内容	コミュニケーションスキル：現代社会におけるコミュニケーションスキルの重要性を解説する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報をておくこと。
3回	事後学修	配布資料をまとめ、理解しておくこと。
	授業内容	体力の概念：体力の構成を行動体力と防衛体力の観点から説明する。
4回	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報をておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ、講義全体の内容を整理し、理解しておくこと。
5回	授業内容	運動・スポーツの効果：運動やスポーツが心身に及ぼす影響を解説する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報をしておくこと。
6回	事後学修	配布資料をまとめ、理解しておくこと。
	授業内容	運動による疲労：身体活動が与える疲労を様々な指標で捉え、その影響を説明する。
7回	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報をしておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ、理解しておくこと。
8回	授業内容	運動学習：運動を学習するための理論を説明する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して、関連情報をしておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ、理解しておくこと。

◆教科書 特になし

◆参考書(参考文献等) 『健康・スポーツ教育論』 日本大学文理学部体育学研究室編 八千代出版

◆成績評価基準 授業への取り組みおよびテストによって総合的に評価する。

◆憲法 MA(開講単位数:2単位)

担当者:名雪 健二

充当科目コード : K20100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 法学部は1学年以上, その他は2学年以上

◆授業概要 前期では、憲法の概念、憲法の分類、日本国憲法の構造といった基礎観念や基本原理、また、天皇をみていくが、とくに、人権総論（人権享有の主体、法の下の平等など）と精神的自由、経済的自由、人身の自由、社会権が中心となる。

◆学修到達目標 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、われわれが国家生活をしていく上で憲法を知ることは、極めて重要である。憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法の判例をみることで、生きた憲法を理解することができ、さらに、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆授業方法 憲法の解釈論が中心となるが、生きた憲法を理解するために、判例もあげる。本講義は、メディアを利用しての授業であることから、教科書および参考書等による自己学習の併用となる。

◆授業計画

回	授業内容	憲法（憲法の概念、憲法の分類、憲法の特質）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところをまとめておくこと。とくに、近代的意味の憲法とは何かを、理解しておくこと。また、憲法が制限規範としての性格をもつとは、何を意味するのか、理解しておくこと。
2回	授業内容	日本憲法史（明治憲法の成立、明治憲法の構造と特色）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。明治憲法がどのようにして制定されたかを、まとめておくこと。
3回	授業内容	日本憲法史（ポツダム宣言の受諾、日本国憲法制定の経過、日本国憲法制定の法理）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、日本国憲法制定の法理について理解しておくこと。
4回	授業内容	日本国憲法の基本原理（前文、日本国憲法の基本原理）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、前文の性質と前文の裁判規範性について理解しておくこと。また、国民主権の原則が、憲法上、いかに具現化されているかを、理解しておくこと。さらに、憲法第9条にいう国際紛争を解決する手段としての戦争と戦力の意味を理解しておくこと。
5回	授業内容	天皇（天皇の地位）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、天皇の行為についてまとめておくこと。
6回	授業内容	天皇（皇位継承、天皇の権能、皇室の経済）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、天皇の権能の行使の要件と天皇の権能の代行についてまとめておくこと。
7回	授業内容	基本的人権（人権総論）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、違憲審査基準について理解しておくこと。また、人権享有の主体、とりわけ、外国人の人権と私人間効力について、それぞれの判例を含めてまとめておくこと。
8回	授業内容	基本的人権（法の下の平等）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。法の下の平等の意味、不合理な差別の禁止について、判例を含めてまとめておくこと。
9回	授業内容	基本的人権（精神的自由）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、内心の自由の保障の内容、信教の自由の内容と政教分離の原則、集会の自由の内容と公安条例の合憲性、報道の自由と取材の自由、検閲の禁止、学問の自由の内容と大学の自治について、それぞれ問題点があるので整理し、判例もあわせてよくまとめておくこと。
10回	授業内容	基本的人権（経済的自由、人身の自由）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、財産権の保障・内容・財産権の制限と保障についてまとめておくこと。また、適法手続の保障、不法に逮捕されない権利、刑罰法の不遡及と一事不再理について理解しておくこと。
11回	授業内容	基本的人権（社会権）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、生存権の法的性格をいかに解するかについて学説と判例をまとめておくこと。また、労働基本権については、公務員の労働基本権に関する判例の動向をよく理解しておくこと。
12回	授業内容	基本的人権（國務請求権、参政権、国民の義務）
	事前学修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事後学修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、選挙権の性格をいかに解するかを、理解しておくこと。

◆教科書 市販本『日本国憲法』 名雪健二著 有信堂

◆参考書(参考文献等) 市販本『憲法第7版』 芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店

◆成績評価基準 成績は、試験を中心に、授業の受講状況と理解度チェック（すべての提出が前提であり、提出がない場合は減点となる。）を加味して、総合的に評価する。

◇民法 I MA(開講単位数:2単位)

担当者:根本 晋一

充当科目コード : K20200

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 法律学科は1学年以上, その他の学科・専攻は2学年以上

◆授業概要 民法の意義, 法源(存在形式), 沿革, 指導原理, 私権の社会性, 私権の主体, 私権の客体, 意思表示と法律行為, 代理, 無効と取消し, 条件と期限, 期間, 時効, について学修する。なお, シラバスについては参考なので, 授業開始時に実際のシラバスを確認すること。

◆学修到達目標 民法学における民法総則の位置づけ, 民法総則の意義と体系, 基本的な論点を理解する。併せて, 授業概要の箇所で示した専門用語を, 具体例を用いて説明できるようになる。

◆授業方法 講義形式を採用する。視聴することなくログイン履歴のみを残さないこと。最終試験受験の前提として, 理解度チェック問題を必ず解くこと。各学生の受講状況は, こちらから確認できる。

◆授業計画

回数	授業内容	【序論】 民法の学び方
	事前学修	必要なし
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	民法の全体像
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	民法総則の全体像
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	【本論】 私権の概念
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	私権行使の制限 一般条項 公共の福祉 信義則 権利濫用
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	私権の主体 自然人と法人など
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	私権の客体 「物」概念など
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	意思表示 意思理論 意思主義と表示主義 法律行為
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	法律行為 意思の不存在 瑕疵ある意思表示
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	代理 無効と取消し 法律行為の付款 条件と期限
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	期間計算 時効 趣旨 取得時効
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
回数	授業内容	消滅時効 時効と登記など
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み

◆教科書 特になし

◆参考書(参考文献等) 民法 I (通信教育教材) など。その他, 授業内で紹介をする。

◆成績評価基準 全12回の授業をすべて受講していること。理解度チェック問題をすべて解いていること。視聴状況, 理解度チェック, 最終試験の総合点により評価する。

◇民法ⅡMA(開講単位数:2単位)

担当者:根本 晋一

充当科目コード : K30100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 物権法の前半部分、すなわち、物権法総論 占有权 所有权 用益物権（地上権 永小作権 地役権 入会権など）について学修する。

後期開講予定の民法ⅡMB（担保物権法）は、民法ⅡMAの続編である。ゆえに、これから民法Ⅱを履修する学生は、山川民法ⅡMAを履修してから、民法ⅡMBを履修することを強く推奨する。順序を逆転すると、理解に差し支えを生じる。

◆学修到達目標 1 民法学における、物権法（物権法総論・用益物権）の体系的な位置付を理解する。2 物権法の体系（全体像）を理解する。3 1, 2の理解・修得を前提として、物権法に関する基本論点を理解する。

◆授業方法 前回講義に相当する部分の、添付レジュメと自分のノートの記述内容をよく復習してから、次回講義に臨むこと。

◆授業計画

回	授業内容	物権法を学ぶにあたって—民法とはどのような法律か—	
		事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
1回	事後学修	テキストとノートの復習	
2回	授業内容	物権法総論① 一序説一	
2回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
2回	事後学修	テキストとノートの復習	
3回	授業内容	物権法総論② 一物権の効力一	
3回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
3回	事後学修	テキストとノートの復習	
4回	授業内容	物権法総論③ 一物権の種類と物権法定主義一	
4回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
4回	事後学修	テキストとノートの復習	
5回	授業内容	物権法総論④ 一物権の変動一	
5回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
5回	事後学修	テキストとノートの復習	
6回	授業内容	物権法総論⑤ 一不動産の物権変動と公示（対抗要件）一	
6回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
6回	事後学修	テキストとノートの復習	
7回	授業内容	物権法総論⑥ 一登記がなければ対抗することができない物権変動一	
7回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
7回	事後学修	テキストとノートの復習	
8回	授業内容	物権法総論⑦ 一登記制度と登記に関する諸問題①一	
8回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
8回	事後学修	テキストとノートの復習	
9回	授業内容	物権法総論⑧ 一登記制度と登記に関する諸問題②一	
9回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
9回	事後学修	テキストとノートの復習	
10回	授業内容	物権法総論⑨ 一動産の物権変動と公示（対抗要件）一	
10回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
10回	事後学修	テキストとノートの復習	
11回	授業内容	物権法総論⑩ 一即時取得に関する諸問題一	
11回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
11回	事後学修	テキストとノートの復習	
12回	授業内容	物権法各論① 占有権（その1）	
12回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
12回	事後学修	テキストとノートの復習	
13回	授業内容	物権法各論② 占有権（その2）	
13回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
13回	事後学修	テキストとノートの復習	
14回	授業内容	物権法各論② 占有権（その2）	
14回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
14回	事後学修	テキストとノートの復習	
15回	授業内容	物権法各論② 占有権（その2）	
15回	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み	
15回	事後学修	テキストとノートの復習	

◆教科書 本講義に添付されるレジュメ、市販本『物権法講義』第3版 山川一陽著 日本評論社

◆参考書(参考文献等) 特になし

◆成績評価基準 全15回の講義を受講していること（ログにて確認をする）。全回受講済を前提として、理解度チェック（全回受験すること。ログにて確認をする）と、最終試験の総合点により成績評価をする。

◆刑法 I MA(開講単位数:2単位)

担当者:野村 和彦

充当科目コード : K20300

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 法律学科は1学年以上, その他の学科・専攻は2学年以上

◆授業概要 犯罪と刑罰に関する基礎理論を学ぶ(刑法総論)。犯罪は、人々の感情を刺激し、憤りをもたらす。しかし、こうした感情を刑法学の議論に持ち込んではならない。それはなぜなのか。そして、刑法が果たすべき役割は何なのか。この講義を通じて考えていただきたい。

◆学修到達目標 第一に、刑法の存在理由について論理的に説明できる力を身につけたい。第二に、さまざまな事案の中で、どの事実がいかなる意味において刑法的に重要なのかを見極める目を養いたい。第三に、刑法学に関する私見を説得的に展開する力も養いたい。

◆授業方法 メディア授業なので、まず当該科目の映像をしっかりとご覧いただきたい。その際に、六法とテキスト、ノートを手元に置き、刑法学の考え方修得に努めてほしい。

◆授業計画

回数	授業内容	課題
1回	授業内容	犯罪の成立要件とその意義(構成要件該当性、違法性、有責性)
	事前学修	教科書の序章を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	犯罪の成立要件について説明せよ。
2回	授業内容	構成要件とは何か
	事前学修	教科書の第1部の各章の目次を見て、どんなことをこれから学ぶのかを確認する。
	事後学修	構成要件の意義は何かを説明せよ。
3回	授業内容	不作為犯とは何か
	事前学修	教科書・第1部第1章を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	不真正不作為犯は罪刑法定主義違反であるという見解について論評せよ。
4回	授業内容	刑法における因果関係論の意義とは何か
	事前学修	教科書・第1部第2章を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	事実の因果関係と刑法的因果関係の違いについて説明せよ。
5回	授業内容	相当因果関係説とは何か
	事前学修	教科書・第1部・第2章4節を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	相当因果関係説の「相当」性について説明せよ。
6回	授業内容	故意犯处罚の原則の意義
	事前学修	教科書・第1部第3章を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	なぜ故意犯处罚が原則なのか。またその例外にはどういうものがあるか。
7回	授業内容	事実の錯誤とは何か
	事前学修	教科書第1部第3章3~5節を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	事実の錯誤と故意犯处罚の原則との関係について説明せよ。
8回	授業内容	過失犯はどのような構造をもつ犯罪か
	事前学修	教科書第1部第4章を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	過失犯のあるべき姿について私見をまとめよ。
9回	授業内容	過失犯の成立要件
	事前学修	教科書第1部第4章を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	故意犯の成立要件と過失犯の成立要件を比較してみよ。
10回	授業内容	未遂犯とは何か
	事前学修	教科書第1部第5章1~4節を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	未遂犯の处罚根拠は何か説明せよ。
11回	授業内容	中止犯とは何か
	事前学修	教科書第1部第5章第5節を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	中止犯は犯罪者にとっての黄金の橋、という言葉があるが、どういうことか。
12回	授業内容	共犯と正犯の違いについて
	事前学修	教科書第1部第6章1~2節を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	正犯と共犯の違いはどこにあるか説明せよ。
13回	授業内容	共同正犯とは何か
	事前学修	教科書第1部第6章3節を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	共謀共同正犯とは何か説明せよ。
14回	授業内容	教唆犯および帮助犯とは何か
	事前学修	教科書第1部第6章4節を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	教唆犯と正犯の違い、帮助犯と共謀共同正犯の違いを、それぞれ説明せよ。
15回	授業内容	身分犯と共犯とは何か
	事前学修	教科書第1部第6章5~6節を読み、理解できないところをメモ書きする。
	事後学修	身分犯の本質を、共犯との関係を念頭に置き説明せよ。

◆教科書 市販本『刑法の基礎総論』 船山泰範著 法律文化社、および、六法(各自が選ぶ)。

◆参考書(参考文献等) 市販本『講義刑法学総論(第2版)』 井田良 有斐閣

市販本『福島原発、裁かれないのでいいのか』 古川元晴・船山泰範 朝日新書

◆成績評価基準 レポートによって評価する(100%)。その際、メディア授業の受講状況も勘案する。

◆刑法ⅡMA(開講単位数:2単位)

担当者:設楽 裕文

充当科目コード:K30800

配当学科:全学科・専攻

配当学年:2学年以上

◆授業概要 さまざまな分野で刑法による規制が強化されつつある昨今、刑法についての基礎的知識の習得と、刑法の解釈・適用に関する確固たる視座の構築は、現代人に不可欠なものとなっている。このことは、個々の犯罪類型について考察する「刑法各論」の領域にとりわけ妥当する。本授業は、刑法Ⅰで学んだことを前提に、このような知識の習得と視座の構築のために実施されるものである。

◆学修到達目標 1. 刑法各論、とくに個人的法益に対する罪(後記教科書『法学刑法2各論』5~89頁参照)についての基礎的知識を習得する。2. 個個人的法益に対する罪に関する各規定の解釈・適用について、判例の考え方を暗記するのではなく、条文の文言と趣旨を基に自己の見解を形成し、論述できるようになる。

◆授業方法 後記教科書を基にした授業を行い、後記参考書の参照を要する箇所は授業内で言及する。履修者において、各回の授業終了後、「自己点検」の短答式問題に解答して基礎的知識等を確認していただく。また5回分の授業終了後、「理解度チェック」の短答式問題に解答していただく。全授業終了後、最終試験のレポートを作成し、期限までに提出していただく。

◆授業計画

1回	授業内容	最初に、本授業について全般的な説明をする。次いで、刑法Ⅰとの関係、刑法Ⅱの体系と学び方を説明し、さらに、生命身体に対する罪について、総説、殺人の罪、傷害の罪、過失傷害の罪の順序で説明する。
	事前学修	教科書1~13頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第1章」の問題にチャレンジする。
2回	授業内容	墮胎の罪、遺棄の罪、逮捕及び監禁の罪、脅迫の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪について説明する。
	事前学修	教科書13~27頁及び配布資料③の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第2章」の問題にチャレンジする。
3回	授業内容	強制わいせつ・強制性交等の罪、住居を侵す罪、秘密を侵す罪について説明する。強制わいせつ・強制性交等の罪については近年大幅な改正がなされているので、配布資料③による訂正に注意する必要がある。
	事前学修	教科書27~35頁及び配布資料③の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第3章」の問題にチャレンジする。
4回	授業内容	名誉に対する罪について、総説、名譽毀損罪、事実の証明、侮辱罪の順序で説明する。これらの罪は、インターネットの発達等により現代社会において重要性を増しているので、注意する必要がある。
	事前学修	教科書35~42頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第4章」の問題にチャレンジする。
5回	授業内容	信用及び業務に対する罪について、総説、信用毀損罪、業務妨害罪の順序で説明する。
	事前学修	教科書42~46頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第5章」の問題にチャレンジする。また、1~5回の授業内容を確認した上、「理解度チェック1」の問題に答える。
6回	授業内容	財産に対する罪に関する基本的事項を、総説、財物と財産上の利益、占有、不法領得の意思の順序で説明する。窃盗及び強盗の罪について、総説、窃盗罪、不動産侵奪罪、親族間の犯罪に関する特例の順序で説明する。
	事前学修	教科書46~55頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第6章」の問題にチャレンジする。
7回	授業内容	第6回の授業に続けて、強盗罪の基本的事項(暴行・脅迫、強取の意義等)について説明する。
	事前学修	教科書55~58頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第7章」の問題にチャレンジする。
8回	授業内容	事後強盗罪、昏睡強盗罪、強盗致死傷罪、強盗・強制性交等の罪、強盗予備罪について説明する。強盗・強制性交等の罪については近年大幅な改正がなされているので、配布資料③による訂正に注意する必要がある。
	事前学修	教科書58~65頁及び配布資料③の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第8章」の問題にチャレンジする。
9回	授業内容	詐欺の罪について、総説、詐欺罪概説(構造、要件等)、詐欺罪と強盗罪、キセル乗車と詐欺罪、クレジットカードの不正利用と詐欺罪、誤振込みと詐欺罪の順序で説明する。特殊詐欺等が多発する現代社会で詐欺罪は重要性を増している。注意する必要がある。
	事前学修	教科書65~70頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第9章」の問題にチャレンジする。
10回	授業内容	まず、第9回の授業に続けて、電子計算機使用詐欺罪、準詐欺罪について説明する。次に、恐喝の罪について説明する。最後に、詐欺罪・恐喝罪共通の諸問題について、相当な対価の提供、不法原因給付、権利行使、両罪の行為の競合、因果的連関、銀行口座への送金の順序で説明する。
	事前学修	教科書70~74頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第10章」の問題にチャレンジする。また、6~10回の授業内容を確認した上、「理解度チェック2」の問題に答える。
11回	授業内容	横領の罪について、総説、横領罪、業務上横領罪、遺失物等横領罪、親族間の犯罪に関する特例(親族である後見人による横領と244条1項の準用の可否)の順序で説明する。
	事前学修	教科書74~78頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第11章」の問題にチャレンジする。
12回	授業内容	背任の罪について、総説、背任罪の要件の順序で説明する。
	事前学修	教科書78~80頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第12章」の問題にチャレンジする。
13回	授業内容	横領罪・背任罪に共通する諸問題について、共犯に関する問題、横領と背任の区別、不動産の二重処分と横領罪・背任罪の順序で説明する。
	事前学修	教科書80~82頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第13章」の問題にチャレンジする。
14回	授業内容	盗品等に関する罪について、総説、各説、親族等の間の犯罪に関する特例の順序で説明する。
	事前学修	教科書82~85頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第14章」の問題にチャレンジする。
15回	授業内容	毀棄及び隠匿の罪について、総説、各説の順序で説明する。最後に、前期MAの授業をまとめる。
	事前学修	教科書85~89頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第15章」の問題にチャレンジする。また、11~15回の授業内容を確認した上、「理解度チェック3」の問題に答える。

◆教科書

市販本『法学刑法2各論』 設楽裕文編 信山社

資料配付 上記教科書の改訂資料として、次のものを配布します。

- ①: 法学刑法2各論正誤表
- ②: 2011年改正に対応する訂正
- ③: 2017年改正に対応する訂正

◆参考書(参考文献等)

市販本『法学刑法5判例インデックス1000』 設楽裕文編 信山社

市販本『現代の判例と刑法理論の展開』 板倉宏監修、著 八千代出版

◆成績評価基準

最終試験(レポート) 80%, 理解度チェック(1~3) 15%, 授業受講状況(視聴状況、質問等) 5%

◇国際政治学／国際政治論／国際政治学概論 MA(開講単位数:2単位)

担当者: 柏本 英雄

充当科目コード : L30200 (国際政治学) (法学部及び文理学部)

R32700 (国際政治論) (経済学部のみ)

S33200 (国際政治学概論) (商学部のみ)

配当学科 : 全学科・専攻 (在籍学部によって充当科目が異なるため注意すること)
配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 国際関係論の理論を国際社会のさまざまな現実に照射して、今、起こっている問題をどう考えればよいのかの道標を提供する。講義は、リサーチクエスチョンについて履修者個々人が考えるところから始まる。国際政治におけるパワーの概念や平和構築概念を使って、グローバル化がもたらす貧困の問題、歴史的な宗教的対立など、「格差」と「相違」の問題を論理的に把握する。

◆学修到達目標 国際関係論の理論を国際社会のさまざまな現実に照らして、今、起こっている問題をどう考えればよいのかの方法論を得られる。国際政治におけるパワーの概念や平和構築概念を使って、グローバル化がもたらす貧困の問題、歴史的な宗教的対立など、「格差」と「相違」の問題を論理的に把握できるようになる。

◆授業方法 本講義では、国際社会をみる上で「学問」の価値がどこにあるのかから説き起こし、社会科学的な思考の訓練をまず実施する。一方的な講義形式ではなく、あらかじめ資料を読み、事実を把握して討論・発表するアクティブ・ラーニング(能動的学修)という双方向授業を実施する。受講生には主体的に授業に参加することが要求される。

◆授業計画

授業回数	授業内容	授業概要
1回	授業内容	国際関係論はどのような学問なのか 1 (テキスト第1章前半)
	事前学修	「第1章 国際関係論はどのような学問なのか」(p.4~p.12)を、ウエストファリア・システムの意味を考えながら読む。
	事後学修	国際関係論とはどのような学問なのか確認しよう。
2回	授業内容	国際関係論はどのような学問なのか 2 (テキスト第1章後半)
	事前学修	「第1章 国際関係論はどのような学問なのか」(p.12~p.18)を、世界の歴史を考えながら読む。
	事後学修	現代の国際システムどのように捉えるか、3つの仮説を整理してみよう。
3回	授業内容	国際関係理論とは何か 1 (テキスト第8章前半)
	事前学修	「第8章 国際関係理論とは何か」(p.122~p.129)を、リアリズムの意味を考えながら読む。
	事後学修	国際関係理論における「理論」と自然科学における理論の違いを考えてみよう。
4回	授業内容	国際関係理論とは何か 2 (テキスト第8章後半)
	事前学修	「第8章 国際関係理論とは何か」(p.129~p.136)を、ネオリベラリズム、コントラクティビズムの意味を考えながら読む。
	事後学修	国際関係理論における「理論」と自然科学における理論の違いを考えてみよう。
5回	授業内容	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス 1 (テキスト第9章前半)
	事前学修	「第9章 国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」(p.138~p.144)を、国際レジームの意味を考えながら読む。
	事後学修	なぜ理論が必要なのか考えてみよう。
6回	授業内容	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス 2 (テキスト第9章後半)
	事前学修	「第9章 国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」(p.144~p.152)を、国際関係理論の展開を考えながら読む。
	事後学修	新しい国際関係論の流れをまとめてみよう。
7回	授業内容	20世紀の国際関係をどう理解するのか 1 (テキスト第2章前半)
	事前学修	「第2章 20世紀の国際関係をどう理解するか」(p.20~p.28)を、20世紀がどのような時代だったのかを考えながら読む。
	事後学修	2度の大戦から冷戦までの歴史を振り返ってみよう。
8回	授業内容	20世紀の国際関係をどう理解するのか 2 (テキスト第2章後半)
	事前学修	「第2章 20世紀の国際関係をどう理解するか」(p.28~p.34)を、20世紀とはなんだったのか考えながら読む。
	事後学修	2度の大戦と冷戦は世界に何をもたらしたのか考えてみよう。
9回	授業内容	今日の国際関係をどう読むのか 1 (テキスト第3章前半)
	事前学修	「第3章 今日の国際関係をどう読むのか」(p.38~43)を、21世紀の世界情勢を考えながら読む。
	事後学修	「9.11」の背景について考えてみよう。
10回	授業内容	今日の国際関係をどう読むのか 2 (テキスト第3章後半)
	事前学修	「第3章 今日の国際関係をどう読むのか」(p.43~51)を、ポスト「9.11」の意味を考えながら読む。
	事後学修	なぜ今、自国第一の時代なのか考えてみよう。
11回	授業内容	グローバリゼーションの時代をどう読むのか 1 (テキスト第4章前半)
	事前学修	「第4章 グローバリゼーションの時代をどう読むのか」(p.54~p.60)を、グローバリゼーションの意味を考えながら読む。
	事後学修	グローバリゼーションの功罪をまとめてみよう。
12回	授業内容	グローバリゼーションの時代をどう読むのか 2 (テキスト第4章後半)
	事前学修	「第4章 グローバリゼーションの時代をどう読むのか」(p.61~p.68)を、グローバリゼーションがどのように変化しているのか考えながら読む。
	事後学修	グローバリゼーションに対する様々な主張をまとめてみよう。
13回	授業内容	南北問題をどう解決するのか 1 (テキスト第11章前半)
	事前学修	「第11章 南北問題をどう解決するか」(p.174~p.189)を、南北問題の意味を考えながら読む。
	事後学修	21世紀の国際社会における諸問題について考えてみよう。
14回	授業内容	南北問題をどう解決するのか 2 (テキスト第11章後半)
	事前学修	「第11章 南北問題をどう解決するか」(p.182~p.189)を、SDGsの意味を考えながら読む。
	事後学修	国内におけるSDG'sに対する取り組みについて調べてみよう。
15回	授業内容	MAのレビュー
	事前学修	これまで学んだ事柄を振り返ってみる。
	事後学修	世界で起こっている現在の問題を、国際関係理論を使って考えてみよう。

◆教科書 『国際関係論 〈第3版〉』 (Next教科書シリーズ) 佐渡友 哲・信夫 隆司・柏本 英雄 編 弘文堂 2018年

◆参考書(参考文献等) 教科書『国際関係論 〈第3版〉』の261~267ページに記載の文献を適宜参照のこと。

◆成績評価基準 全15回の授業をすべて受講していること。理解度チェック問題をすべて解いていること。受講状況、理解度チェック、最終試験の総合点により評価する。

◇政治学原論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:荒井 祐介

充 当 科 目 コ ー ド : L20100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 政治経済学科は1学年以上, その他の学科・専攻は2学年以上

◆授業概要 本講義では、政治学の基礎的な概念や理論・モデルについて学び、それらの知識をもとに、現実の政治的事象について自ら理解・分析できることを目指す。講義では、まず、政治学の歴史と発展について学び、そのうえで、民主主義理論の基礎的なモデル、および民主主義の政治過程に関する様々な概念について学修する。

◆学修到達目標 1. 政治学がどのような学問として成立してきたのかを説明できるようになる。2. 民主主義とはどのような政治システムであり、どのような類型が可能であるのかを説明できるようになる。3. 政治過程の諸側面に関する基礎的な概念について説明できるようになる。4. これらの知識をもとに、現実の政治的事象について自らの視点で理解・分析できるようになる。

◆授業方法 スライドに記載された内容に沿って説明をする。各回に「自己点検」が用意されているで、各授業の内容について自分の理解度を確認する。5回の授業ごとに「理解度チェック」があるので、必ず受けるようにする。

◆授業計画

1回	授業内容	「政治とは何か」この回では、政治とは何かという問題について説明する。具体的には、政治には、「制御としての政治」「権力としての政治」「闘争としての政治」「価値分配としての政治」という側面があることを説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、政治を捉える様々な側面について確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
2回	授業内容	「伝統的政治学」政治学という学問分野が古代ギリシアから近代に至るまでどのように展開してきたのかを歴史的にふりかえり、その対象や方法の変化について説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、学問としての政治学がどのような発展を経てきたのかを確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
3回	授業内容	「現代政治学(1)」現代政治学の発展を歴史的にふりかえる。この講義では、制度論的政治学から、リアリズムを強調する政治学や科学的政治学への変化に焦点を合わせて説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、リアリズムを強調する政治学や科学的政治学がどのような特徴をもっているのかを確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
4回	授業内容	「現代政治学(2)」現代政治学の発展を歴史的にふりかえる。この講義では、第二次世界大戦後のアメリカにおいて大きく発展した行動論的政治学と呼ばれる潮流について、その契機や特徴、成果を説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、アメリカでなぜ行動論的政治学が大きく発展したのか、また行動論的政治学の特徴と成果について確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
5回	授業内容	「現代政治学(3)」現代政治学の発展を歴史的にふりかえる。この講義では、アメリカを中心に発展した行動論的政治学がなぜ岐路に立たされることになったのか、そしてどのような変化を遂げていたのかについて説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、行動論的政治学に変化をもたらしたもののが何であるのか、またアメリカの政治学がどのような変化を示したのかについて確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
6回	授業内容	「古典的民主主義と現代民主主義」民主主義という政治システムについて、その源流に位置づけられる古代アテネの民主主義がどのような考え方に基づくものだったのか、そして現代における民主主義はどのように理解されているのかを説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、古代アテネで成立していた古典的民主主義がどのような理論であり実践であったのか、そして現代における民主主義はどのようなモデルであり、それは古典的民主主義とどのように異なるのかについて確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
7回	授業内容	「ボリアーキー」アメリカの政治学者ロバート・ダールが提起した「ボリアーキー」という概念について、その登場の契機や特徴、意義などを説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、ボリアーキー論の契機および特徴、意義について確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
8回	授業内容	「多極共存型民主主義」オランダ出身の政治学者アーレント・レイハルトが提起した「多極共存型民主主義」という概念について、その登場の契機や特徴、意義などを説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、多極共存型民主主義論の契機および特徴・意義について確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
9回	授業内容	「多数決型民主主義と合意形成型民主主義」オランダ出身の政治学者アーレント・レイハルトが提起した「多数決型民主主義」と「合意形成型民主主義」という2つのモデルについて、それぞれの特徴や意義を説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、多数決型民主主義と合意形成型民主主義の特徴と意義について確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
10回	授業内容	「執政制度」執政府と立法院の関係を公式的に規定する執政制度について説明する。具体的には、議院内閣制、大統領制、半大統領制という3つの執政制度の特徴について説明する。さらに、公式的な執政制度に変更がないにもかかわらず大統領制的な統治が幅広く見られることを提起した「大統領制化論」についても説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、議院内閣制、大統領制、半大統領制の制度的相違について、および大統領制化論の内容と意義について確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
11回	授業内容	「投票行動」民主政治の最も重要な仕組みの一つである選挙について有権者がどのように行動しているのか、という点について投票行動研究を概観する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、投票行動の社会学モデルと心理学モデルそれぞれの特徴と相違点について確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
12回	授業内容	「政党」民主政治に不可欠なアクターと見なされる政党はどのような特徴を持ち、どのようなタイプが存在するのかを説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、政党の定義と機能、各論者が提起した政党のタイプのヴァリエーションについて確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
13回	授業内容	「政党システム」政党の相互作用から形成される政党システムに焦点を合わせ、どのような政党システムの類型論が提起されているのかを説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、政党システムとはどのような概念であるのか、政党システムの類型論にはどのようなものがあるのかについて確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
14回	授業内容	「政策過程(1)」この講義では、一連の政策過程の段階について説明したうえで、とくに「政策決定過程」についての諸モデルを概観する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、政策過程における段階について、とくに「政策決定過程」についての諸モデルを特徴について確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
15回	授業内容	「政策過程(2)」この講義では、一連の政策過程の段階のうち、とくに「課題設定過程」と「政策実施過程」についての議論を概観する。そのうえで、政策過程研究に重要な論点を提起した「ゴミ缶モデル」についても説明する。
	事前学修	スライド資料に目を通して、講義の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とスライド資料をふりかえり、課題設定過程と政策実施過程に関する議論の要点を確認し、「ゴミ缶モデル」が政策過程研究に提起した論点についても確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。

◆教科書 資料配付 スライド資料を配布する。

◆参考書(参考文献等) スライド資料の中で適宜指示する。

◆成績評価基準 授業受講状況(20%)、理解度チェック(30%)、最終レポート試験(50%)により評価する。

◇国語学概論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:鈴木 功真

充当科目コード : M20300

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 文学専攻(国文学)は1学年以上, その他の学科・専攻は2学年以上

◆授業概要 日本語はそれを母語とするものとしては無自覚に用いている道具に過ぎない側面も有する。その日本語を学問対象として取り上げるのが日本語学であり, 本講座を通じて日本語を客観的に記述できるようになることを目指す。日本語学は言語学の一分野である。それを一通りまとめている教科書を参照し, 具体例を含んだ解説を理解することによって, 把握できることを目指す。

◆学修到達目標 日本語学のうち, MAでは概論, 音声・音韻, 文字表記を具体的に取り上げ, それらを把握し, 身の回りで触れる言語現象に就いて具体的, 客観的に説明できるようになる事を目的とする。必要に応じて歴史的観点を援用し, 歴史的変遷の導入も把握できるように心がける。

◆授業方法 本講座はメディア授業である。教科書を用いるので十分に予習の上でメディアを受講し, 受講後は振り返りを行いつつ必要に応じて内容に即した具体例を身の回りの言語現象から採取していくことが望ましい。

◆授業計画

	授業内容	言語と人間1, 特質と機能
1回	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
2回	授業内容	言語と人間2, 恣意性・学説・言語中枢
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
3回	授業内容	日本語の音声・音韻1-1, 音声と音韻, 単音・音素
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
4回	授業内容	日本語の音声・音韻1-2, 母音・母音の無声化・母音の音色の生成
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
5回	授業内容	日本語の音声・音韻2-1, 音声器官・子音の基本事項
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
6回	授業内容	日本語の音声・音韻2-2・3-1, 子音・清濁・ハ行子音とサ行子音の変遷・四つ仮名
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
7回	授業内容	日本語の音声・音韻3-2, 拗音・合拗音・連濁・連声・語音の変化・上代特殊仮名遣
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
8回	授業内容	日本語の音声・音韻4-1, 拍と音節・アクセント
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
9回	授業内容	日本語の音声・音韻4-2, 共通語のアクセント, プロミネンス・日本語のリズム
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
10回	授業内容	日本語の文字表記1-1, 特色
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
11回	授業内容	日本語の文字表記1-2, 表記の歴史
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
12回	授業内容	日本語の文字表記2-1, 漢字の構造と音訓
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
13回	授業内容	日本語の文字表記2-2, 漢字の部首と送り仮名
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
14回	授業内容	日本語の文字表記3-1, 仮名とローマ字
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。
15回	授業内容	日本語の表記3-2, 現代仮名遣い
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ, 身の回りでの類例を蓄積すること。

◆教科書 『緑の日本語学教本』 (2010年3月初版) 藤田保幸著 和泉書院

◆参考書(参考文献等) 日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版), 佐藤武義ほか編『日本語大事典』(朝倉書店), 飛田良文ほか編『日本語学研究事典』(明治書院), これら参考書は大学や公共図書館で閲覧するレベルのもの。

◆成績評価基準 理解度チェック3回, 期末レポート1回によって総合的に評価する。

◇国文学講義V(近代)MA(開講単位数:2単位)

担当者:榎本 正樹

充当科目コード : M30900

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 日本近代文学の文芸思潮や流派・結社それに個々の作家や作品傾向の概要を把握・理解することが、この講義の目標になります。新政府の近代政策(版籍奉還・廢藩置県・散髪廃刀・郵便制度施行・学制の布告・太陽暦採用・鉄道開業等)の展開とともに、文学もまたこの時代の進展に沿った激流に翻弄されていきます。そうした時代背景を踏まえつつ、明治初期の文学的状況について考えていきます。

◆学修到達目標 明治から大正期にかけての小説を中心とした近代文学の特性・特色を学ぶことで、近代文学の基礎知識を得ることを目的とします。具体的に作品を読み進めていくことで、それぞれの時代性や環境が文学作品をどのように変化させていったのか、また近代人の意識や価値観、道徳観などがどのように形成されていったのか、自分の言葉で説明できるようになるのがゴールです。

◆授業方法 レッスンを受講し、各章の終りの自己点検テストを受け、理解度チェックのレポートを提出し、試験を受ける一般的なメディア授業の形式です。

◆授業計画

	授業内容	日本近代文学史の展望
1回	事前学修	「五箇条の御誓文」について調べてみましょう
	事後学修	文学の近代化獲得の展開についてまとめてみましょう
2回	授業内容	明治初期の時代性と文学の関わり
	事前学修	「開化政策」について調べてみましょう
3回	事後学修	明治初期に創刊された「大新聞」と「小新聞」についてまとめてみましょう
	授業内容	政治小説の時代
4回	事前学修	「政治小説」というジャンルについて調べてみましょう
	事後学修	「政治小説」の主要作品と特徴についてまとめてみましょう
5回	授業内容	「小説神髄」とその実践
	事前学修	坪内逍遙について調べてみましょう
6回	事後学修	「小説神髄」がなぜ近代小説の出発点たる作品なのか考えてみましょう
	授業内容	新体詩の移入・紹介
7回	事前学修	「新体詩」について調べてみましょう
	事後学修	「新体詩抄」について改めてまとめてみましょう
8回	授業内容	和歌史の概要
	事前学修	和歌文学について調べてみましょう
9回	事後学修	近世和歌の展開についてまとめてみましょう
	授業内容	「御歌所」の設置
10回	事前学修	「御歌所」について調べてみましょう
	事後学修	「御歌所」が和歌にどのような影響を与えていったのかまとめてみましょう
11回	授業内容	与謝野鉄幹の「亡国の音」
	事前学修	「亡国の音」について調べてみましょう
12回	事後学修	「亡国の音」での主張をまとめてみましょう
	授業内容	与謝野鉄幹の実作活動
13回	事前学修	与謝野鉄幹と鳳晶子の関係について調べてみましょう
	事後学修	明星派の歌人についてまとめてみましょう
14回	授業内容	正岡子規の「歌よみに与ふる書」
	事前学修	正岡子規について調べてみましょう
15回	事後学修	「歌よみに与ふる書」によって目指されたものをまとめてみましょう
	授業内容	正岡子規の実践活動(短歌)
16回	事前学修	子規の歌のいくつかについて調べ、観賞してみましょう
	事後学修	アララギの展開についてまとめてみましょう
17回	授業内容	正岡子規の俳句革新活動
	事前学修	正岡子規の門下生について調べてみましょう
	事後学修	俳句革新活動によってたらされたものについてまとめてみましょう

◆教科書 市販本『小説神髄』 坪内逍遙著 岩波文庫

市販本『歌よみに与ふる書』 正岡子規著 岩波文庫

◆参考書(参考文献等) 特になし

◆成績評価基準 自己点検テスト、理解度チェックのレポート提出、試験(リポート形式)などにより、総合的に評価します。

◇イギリス文学史 I MA (開講単位数:2単位)

担当者:猪野 恵也

充当科目コード : N20100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 文学専攻(英文学)は1学年以上, その他の学科・専攻は2学年以上

◆授業概要 黎明期から17世紀末に至るイギリス文学の流れを概観する。重要な作品については実際に作品からの抜粋も読んでいく。

◆学修到達目標 1. 黎明期から17世紀末に至るイギリス文学史の流れを知ることができる。2. 古典に親しむことができる。

◆授業方法 メディア、講義用ディスカッションボード、質疑応答を利用しての授業を展開する。なお講義は原公章先生が担当し、その他の授業運営は猪野が担当します。

◆授業計画

	授業内容	なぜ文学史を学ぶのか
1回	事前学修	予めイギリス文学史を通読しておく、自分なりに学修しておく。
	事後学修	授業内容を踏まえてイギリス文学史を改めて通読し、2回目からの授業に備える。
2回	授業内容	アングロ・サクソン時代の文学
	事前学修	イギリス文学史においてアングロ・サクソン文学について学修しておく。
3回	事後学修	Beowulfを読む。
	授業内容	中世時代の文学(1)
4回	事前学修	イギリス文学史において中世時代について学修しておく。
	事後学修	Piers Plowmanを読み、アーサー王伝説について学修する。
5回	授業内容	中世時代の文学(2)
	事前学修	イギリス文学史において Chaucer について学修しておく。
	事後学修	The Canterbury Talesを読む。
6回	授業内容	ルネサンス時代の文学(1)
	事前学修	イギリス文学史において Edmund Spenser について学修しておく。
	事後学修	The Faerie Queeneを読む。
7回	授業内容	ルネサンス時代の文学(2)
	事前学修	イギリス文学史において神秘劇、道徳劇について学修しておく。
	事後学修	Everymanを読む。
8回	授業内容	ルネサンス時代の文学(3)
	事前学修	William Shakespeare は重要な作家なので文学史をよく読んでおく。
	事後学修	史劇、喜劇、悲劇など Shakespeare による戯曲をなるべく原文で読む。
9回	授業内容	作品を読む-シェイクスピア
	事前学修	予め辞書を引くなどをして抜粋された英文に目を通しておく。
	事後学修	史劇、喜劇、悲劇など Shakespeare による戯曲をなるべく原文で読む。
10回	授業内容	ルネサンス時代の文学(4)
	事前学修	イギリス文学史において Ben Jonson について学修しておく。
	事後学修	Ben Jonson による戯曲を読む。
11回	授業内容	ピューリタン時代の文学(1)
	事前学修	イギリス文学史において Milton について学修しておく。
	事後学修	Milton による Paradise Lost を読む。
12回	授業内容	ピューリタン時代の文学(2)
	事前学修	イギリス文学史において Milton について学修しておく。
	事後学修	Milton による Paradise Lost を読む。
13回	授業内容	17世紀の詩
	事前学修	イギリス文学史において 17世紀の詩について学修しておく。
	事後学修	「イギリス名詩選」(岩波文庫)などの詩集を入手し、実際に英詩を読む。
14回	授業内容	作品を読む-ミルトン
	事前学修	イギリス文学史において Milton について学修しておく。
	事後学修	Milton による Paradise Lost を読む。
15回	授業内容	作品を読む-形而上詩人
	事前学修	イギリス文学史において形而上詩人について学修しておく。
	事後学修	「イギリス名詩選」(岩波文庫)などの詩集を入手し、実際に英詩を読む。
	授業内容	再び、文学史を学ぶことについて
	事前学修	14回目までの授業内容をじゅうぶん時間をかけて復習しておく。
	事後学修	学んだことを念頭に置いてイギリス文学史を通読し、実際に作品を読んでみる。

◆教科書 特になし

◆参考書(参考文献等) 通材『イギリス文学史 I N20100』通信教育部教材 (教材コード 000111)

◆成績評価基準 受講状況(10%) 理解度チェック(20%) 最終試験(70%) 理解度チェックを全て提出していることを前提に評価する。試験は2問併せて1600字前後にまとめること。あまり少なすぎても多すぎても不可。

◇英文法 MA (開講単位数:2単位)

担当者:山岡 洋

充当科目コード : N20200

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 文学専攻(英文学)は1学年以上、その他は2学年以上

◆授業概要 英語の文法を理解するために、まずは文法が何かを学び、その後で日本語の文法と英語の文法の相違点共通点を学び、その後で英語の文の種類として平叙文・疑問文・命令文・感嘆文について学び、文の中では結び付きが強い部分と弱い部分があり、結び付きが強い部分が句を形成することを学ぶ。それに次いで、名詞・代名詞・冠詞・動詞についてその詳細を学ぶ。

◆学修到達目標 本講座では、英語の文法(ことばの規則)について、基礎的なレベルを定着させることを目的とする。最初は文法用語など、文法を学ぶ際の前提となる「用語」や「品詞」などについて説明をする。その後で、文の構成の基本となる名詞・代名詞・動詞の説明をし、英文法MB(後期にて開講)でのさらに複雑な他の品詞へと繋げていく。本講義の内容を理解することにより、単純な構造の英語を正確に理解できるようになる。

◆授業方法 基本的には、インターネット上の教材を視聴しながら授業を受けていく。その際に、常に教科書を参照しながら、そして、インターネット上の教材や教科書だけでは理解不十分の箇所に関しては参考書を必要に応じて参照する。各章ごとに、「自己点検」が設けられているので、その都度理解度を確認し、また数章ごとに「理解度チェック」が計4回設けられているので、そこでも改めて理解度を確認する。最後に「最終試験」が設けられている。

◆授業計画

	授業内容	文法とは何か?・品詞と文の働き
1回	授業内容	文法とは何か?・品詞と文の働き
	事前学修	教科書 pp. 2-12 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 2-12 を見ながら再確認する。
2回	授業内容	語順・主語・数・時制の一致
	事前学修	教科書 pp. 53-64 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 53-64 を見ながら再確認する。
3回	授業内容	文の種類・平叙文・肯定文と否定文
	事前学修	教科書 pp. 65-87 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 65-87 を見ながら再確認する。
4回	授業内容	疑問文・命令文・感嘆文
	事前学修	教科書 pp. 65-87 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 65-87 を見ながら再確認する。
5回	授業内容	名詞とは・可算性・性・格
	事前学修	教科書 pp. 97-112 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 97-112 を見ながら再確認する。
6回	授業内容	普通名詞・集合名詞・物質名詞・抽象名詞・固有名詞
	事前学修	教科書 pp. 112-128 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 112-128 を見ながら再確認する。
7回	授業内容	代名詞とは・人称代名詞
	事前学修	教科書 pp. 128-148 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 128-148 を見ながら再確認する。
8回	授業内容	人称代名詞・指示代名詞・疑問代名詞
	事前学修	教科書 pp. 131-155 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 131-155 を見ながら再確認する。
9回	授業内容	不定代名詞
	事前学修	教科書 pp. 155-171 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 155-171 を見ながら再確認する。
10回	授業内容	冠詞
	事前学修	教科書 pp. 176-188 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 176-188 を見ながら再確認する。
11回	授業内容	動詞とは・動詞の文法的種類
	事前学修	教科書 pp. 210-220 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書 pp. 210-220 を見ながら再確認する。
12回	授業内容	5文型・動詞の補部・状態動詞と動作動詞
	事前学修	教科書の第1章, pp. 216-222 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、教科書の第1章, pp. 216-222 を見ながら再確認する。

◆教科書 市販本『新英文法概説』 山岡洋著 開拓社

◆参考書(参考文献等) 市販本『英文法解説(改訂三版)』 江川泰一郎 金子書房

市販本『ロイヤル英文法(改訂新版)』 綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘・マークピーターセン 旺文社

市販本『Evergreen』 奥タカユキ 編著 いいづな書店

◆成績評価基準 メディア授業受講状況(質疑応答、ディスカッション) 20%, 理解度チェック 10%, 最終試験 70%

◇英語文学概説／英米文学概説 MA (開講単位数:2単位)

担当者:猪野 恵也

充当科目コード: 2019年度入学生及び科目履修生はN20400 (英語文学概説), それ以外の学生についてはN20300 (英米文学概説)

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 文学専攻 (英文学) は1学年以上, その他の学科・専攻は2学年以上

◆授業概要 この講義はイギリス文学史ではないので, イギリス文学全般にわたってその思想や感情といった面の英国的特徴を考察, 理解することを目標とする。いわば「イギリス文学の特質」といった講義である。また, 中学校, 高校の授業でどのように関わりがあるのか講義用ディスカッションボードで議論したいと思う。

◆学修到達目標 1. 現代までのイギリス文学史の流れについて知識を身につけることができる。2. イギリス文学における「英国的特徴」を知ることができる。

◆授業方法 メディア, 講義用ディスカッションボード, 質疑応答を利用しての授業を展開する。なお講義は小野寺健先生が担当し, その他の授業運営は猪野が担当します。

◆授業計画

回数	授業内容	内容
1回	授業内容	アングロ・サクソン文学
	事前学修	イギリス文学史においてアングロ・サクソン文学について学修しておく。
	事後学修	<i>Beowulf</i> を読む。
2回	授業内容	初期のキリスト教文学と Chaucer の世界
	事前学修	イギリス文学史において Chaucer について学修しておく。
	事後学修	<i>The Canterbury Tales</i> を読む。
3回	授業内容	Shakespeare の世界
	事前学修	William Shakespeare は重要な作家なので文学史をよく読むこと。
	事後学修	史劇, 喜劇, 悲劇など Shakespeare による戯曲をなるべく原文で読む。
4回	授業内容	英文学における宗教と文学 - Milton と Bunyan
	事前学修	イギリス文学史において Milton と Bunyan について学修しておく。
	事後学修	Milton による <i>Paradise Lost</i> , Bunyan による <i>The Pilgrim's Progress</i> を読む。
5回	授業内容	散文文学の発達-Defoe と Swift
	事前学修	イギリス文学史において Defoe と Swift について学修しておく。
	事後学修	Defoe による <i>Robinson Crusoe</i> , Swift の <i>Gulliver's Travels</i> をなるべく原書で読む。
6回	授業内容	英國の詩-形而上派・古典主義
	事前学修	イギリス文学史において形而上派詩人と古典主義について学修しておく。
	事後学修	「イギリス名詩選」(岩波文庫)などの詩集を入手し, 実際に英詩を読む。
7回	授業内容	人間的関心(1): 常識とユーモア- Dr Johnson, Goldsmith: <i>The Vicar of Wakefield</i>
	事前学修	イギリス文学史において Dr Johnson と Goldsmith について学修しておく。
	事後学修	Goldsmith による <i>The Vicar of Wakefield</i> をなるべく原文で読む。
8回	授業内容	人間的関心(2): 小説の誕生とロマン主義の復活 - 四大作家, ロマン派の詩人たち, ゴシック・ロマンスと超常現象趣味
	事前学修	イギリス文学史において四大作家, ロマン主義及びゴシック・ロマンスについて学修する。
	事後学修	四大作家による作品, ロマン派詩人達の詩, ゴシック・ロマンスをなるべく原文で読む。
9回	授業内容	リアリズムの精神と小説の隆盛(1) - 産業革命とヴィクトリア朝文化: Austen から Brontes 姉妹まで
	事前学修	産業革命とヴィクトリア朝の特徴について調べておく。
	事後学修	時代背景を念頭におきながら Austen から Brontes 姉妹の作品をなるべく原文で読む。
10回	授業内容	リアリズムの精神と小説の隆盛(2) - George Eliot から Hardy まで
	事前学修	イギリス文学史においてヴィクトリア朝における作家について学修しておく。
	事後学修	George Eliot, Thomas Hardy などのヴィクトリア朝の作家による作品をなるべく原文で読む。
11回	授業内容	美の追求と自然主義・社会主義の文学 - 第一次大戦まで
	事前学修	世紀末から第一次大戦までの文学史の流れを学修しておく。
	事後学修	Oscar Wilde などの作品をなるべく原文で読む。
12回	授業内容	20世紀英文学の課題-自然, 政治的信条, 福祉社会, 植民地
	事前学修	ポストコロニアル文学に至るまでの文学史を学修しておく。
	事後学修	V. S. Naipaul などのポストコロニアル文学の作品をなるべく原文で読む。

◆教科書 特になし

◆参考書(参考文献等)

市販本 『イギリス文学史』 川崎寿彦著 成美堂

市販本 『英国的経験』 小野寺健著 筑摩書房

市販本 『イギリス的人生』 ちくま文庫 小野寺健著 筑摩書房

◆成績評価基準 受講状況(10%) 理解度チェック(20%) 最終試験(70%) 理解度チェックを全て提出していることを前提に評価する。

◇英語史 MA (開講単位数:2単位)

担当者:真野 一雄

充当科目コード: N30300

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 2学年以上

◆授業概要 英語の外面史、すなわち英語と英國社会との関わり、英國の歴史が英語にどういう影響を与えたか、そして英語がどう変化していったかをテキスト(英文)を読みながら概観します。

◆学修到達目標 英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか、歴史的な流れの基礎的な知識を修得することができるようになる。過去の歴史を振り返り、英語の未来の姿を想像することができるようになる。

◆授業方法 メディアを利用して聴講、課題(理解度チェック1, 2+最終試験)を提出する。

◆授業計画

回	授業内容	第1章 インド・ヨーロッパ語族(1)
1回	事前学修	英語の世界的な広がりを考えてみる。
	事後学修	インド・ヨーロッパ祖語とは何か、理解しておく。
2回	授業内容	第2章 インド・ヨーロッパ語族(2)
	事前学修	どのような言語がインド・ヨーロッパ語族に属するか、考える。
	事後学修	インド・ヨーロッパ語族にはどのような言語が属するか、理解しておく。
3回	授業内容	第3章 ゲルマン語派(1)
	事前学修	ゲルマン語の特徴とは、何か、考える。
	事後学修	ゲルマン語の特徴とは、何か、確認する。
4回	授業内容	第4章 ゲルマン語派(2)
	事前学修	どのような言語がゲルマン語派に属するか、考える。
	事後学修	英語の系統的な位置づけをする。
5回	授業内容	第5章 古英語(1)
	事前学修	古英語時代は、どのような時代であったか、考えてみる。
	事後学修	古英語時代は、どのような時代であったか、確認する。
6回	授業内容	第6章 古英語(2)
	事前学修	古英語とは、どのような言語か、想像してみる。
	事後学修	古英語と近代英語を比較して、古英語の特徴を確認する。
7回	授業内容	第7章 古英語(3) + 理解度チェック1
	事前学修	キリスト教は英語にどのような影響を与えたか、想像してみる。
	事後学修	古英語時代の借用語を確認する。
8回	授業内容	第8章 中英語(1)
	事前学修	ノルマン人の征服とは何か、調べてみる。
	事後学修	ノルマン人の征服が英語に与えた影響を確認する。
9回	授業内容	第9章 中英語(2)
	事前学修	中英語時代とは、どのような時代であったか、考えてみる。
	事後学修	中英語の特徴を確認する。
10回	授業内容	第10章 近代英語(1) 一時代区分、その背景
	事前学修	近代英語とは、どのような時代であったか、考えてみる。
	事後学修	近代英語の特徴を確認する。
11回	授業内容	第11章 近代英語(2) -ModE の特徴
	事前学修	大母音推移とは何か、考えてみる。
	事後学修	標準英語がどのように成立したか、確認する。
12回	授業内容	第12章 近代英語 -借用語、アメリカ英語など+ 理解度チェック2、試験
	事前学修	英語がどのように世界へ広まつていったか、考えてみる。
	事後学修	近代英語期の借用語にはどのような特徴があるか、確認する。

◆教科書 通材『英語史 0441』通信教育部教材(教材コード 000117)

◆参考書(参考文献等) 市販本『英語の歴史—過去から未来への物語』 寺澤 盾著 中公新書 1971

◆参考書(参考文献等) 市販本『英語の歴史』 中尾俊夫著 講談社現代新書958

◆成績評価基準 2回の理解度チェック及び最終試験の提出を条件に、その2回の理解度チェック及び最終試験に受講(視聴)回数を加味して評価する。

◇英語音声学 MA (開講単位数:2単位)

担当者:森 晴代

充当科目コード : N30600

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 英語音声の分節的特徴（母音、子音、音節）について、日本語音声と比較しながら授業を進めます。音声言語を観察・分析・記述する枠組みと、英語の標準発音の特徴について、実践的・探索的に理解を深めます。英語と日本語の言語としての特徴を探り、音声言語の観点から、英語らしさ・日本語らしさについての考えを発展させます。そして、受講者各自の英語発音や日本語発音について、内省・観察するための基礎づくりを進めます。

◆学修到達目標 本講義の目標は次の2つに大別されます。ひとつは、話すことばとしての英語の主要な特徴を説明することができ、人間の音声コミュニケーションについて理解と考察を進めることができるようになります。もうひとつの目標は、音声学的視点をもち、英語音声を自覚的に運用することができるようになります。

◆授業方法 受講者各自が、メディア授業の受講と理解度チェックを計画的に進めることができます。「授業計画」で学修期間を確認し、自身の計画を入念に立ててください。授業各回にある事前学習の「問い合わせ」について、自分自身の考え方や観察をまとめた上で受講し、事後学修を行ってください。学習時には「講義用ディスカッションボード」を必ず閲覧するとともに、受講者間での意見交換にも積極的に利用することを強く勧めます。

◆授業計画

	授業内容	話すことばの科学 コミュニケーションにおける「ことば」を見直し、音声言語の特徴について考察します。
1回 事前学修	問: 言語音声はどのような情報を相手に伝達しているか?	第1章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
	事後学修	第1章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
2回 事前学修	授業内容	ことばを生み出す身体器官 言語音声を作り出す身体器官の働きについて概説します。
	事後学修	問: 「ロボットのように話してください」と言われたら、あなたは何をどのように調整して話しますか? 第2章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
3回 事前学修	授業内容	音声記述の枠組み (1): 日本語子音の調音と国際音声字母(IPA) 子音を記述する枠組みを解説し、日本語子音の調音運動を記述・考察します。
	事後学修	問: 五十音図におけるサ行の「さ」と「し」の子音は同じか、それとも異なるか? 第3章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
4回 事前学修	授業内容	音声記述の枠組み (2): 基本母音と日本語母音の調音 母音を記述する枠組み解説し日本語の母音の調音運動を記述・考察します。
	事後学修	問: 五十音図の「あ」と「い」の発音では、顎の位置に違いはあるか? 第4章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
5回 事前学修	授業内容	音韻論の基本概念 (1): 音素と異音 音声の言語学的段階である音韻論の基本概念について解説します。
	事後学修	問: 五十音図におけるハ行の子音は全て同じだろうか? 第5章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。そして、ここまででの講義内容に関する理解を確認するために、理解度チェック(1)を解答してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
6回 事前学修	授業内容	英語の母音 英語発音の標準音型と英語母音の特徴について概説します。
	事後学修	第4回における「母音記述の音声学的枠組み」「基本母音」「日本語母音の記述」を確認してください。 第6章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
7回 事前学修	授業内容	英語の子音 英語子音の特徴について概説します。
	事後学修	第3回における「子音記述の音声学的枠組み」と「日本語子音の記述」を確認してください。 第7章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
8回 事前学修	授業内容	音節 英語の単語に含まれる様々な分節音の連続を観察して、英語音節の特徴を探ります。
	事後学修	問: 英語発音の「quick」と日本語発音の「クイック」はどのように異なるか? 第8章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。 そして、ここまででの講義内容に関する理解を確認するために、理解度チェック(2)を解答してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
9回 事前学修	授業内容	英語音声の観察と発音練習 (1) 英語母音の観察、発音、そして聞き取りの練習をします。
	事後学修	第6章の英語母音の特徴を確認してください。 自分自身の発音を注意深く観察・分析し、その特徴をまとめておきましょう。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
10回 事前学修	授業内容	英語音声の観察と発音練習 (2) 英語子音の観察、発音、そして聞き取りの練習をします。
	事後学修	第7章の英語子音の特徴を確認してください。 自分自身の発音を注意深く観察・分析し、その特徴をまとめておきましょう。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
11回 事前学修	授業内容	音韻論の基本概念 (2): 英語の異音規則 「音素と異音」という観点を英語音声に適用して、代表的な音声的特徴の変化を異音規則として記述します。
	事後学修	問: 「team」と「meat」の「t」の発音はどのように異なるか? 第11章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
12回 事前学修	授業内容	日英語の音声・音韻体系と音声転移 英語と日本語における分節音の特徴を、第2言語の音声獲得という観点から考えます。
	事後学修	問: なまった英語発音 (e.g. 日本語っぽい英語発音) は、なぜ起るか? 第12章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。

◆教科書 特になし

◆参考書(参考文献等) メディア授業「英語音声学MA」の各章に明記しています。

◆成績評価基準 最終レポート試験を中心として、メディア授業受講状況と理解度チェック（受験結果）、そして「講義用ディスカッションボード」への参加状況を加味して、総合的に評価します。

◇英語学概説 MA (開講単位数:2単位)

担当者:山岡 洋

充当科目コード : N30700

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 言語学の一分野としての英語学が、どのような学問分野であるか、その全体像を理解する。具体的には、英語学という学問の存在意義やその下位分類としてどのような学問分野が存在するのか、そしてそれぞれの学問分野は概略どのような内容であるのかを、概略で説明する。この講座では、中でも、音と意味に関する学問分野を紹介していく。

◆学修到達目標 言語学の一分野としての英語学が、どのような学問分野であるか、その全体像を理解する。具体的には、英語学という学問の存在意義やその下位分類としてどのような学問分野が存在するのか、そしてそれぞれの学問分野は概略どのような内容であるのかを、概略で説明する。この講座では、中でも、音と意味に関する学問分野を紹介していく。英語学の全体像を理解することにより、英語教員として身に着けておくべき英語に関する基礎的な知識を身に着け、国際語としての英語をいかに学習者に伝えるかを幅広く考えられるようになる。

◆授業方法 基本的には、インターネット上の教材を視聴しながら授業を受けていく。その際に、インターネット上の教材だけでは理解不十分の箇所に関しては参考書を必要に応じて参照する。各章ごとに、「自己点検」が設けられているので、その都度理解度を確認し、また数章ごとに「理解度チェック」が計3回設けられているので、そこでも改めて理解度を確認する。最後に「最終試験」が設けられている。

◆授業計画

	授業内容	英語学とは -言語学の中の英語学-
1回	事前学修	参考図書の「ことばの知識」や「言語学の諸分野」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「ことばの知識」や「言語学の諸分野」に関する箇所を見ながら再確認する。
2回	授業内容	音の研究 -音声学と音韻論-
	事前学修	参考図書の「音声学と音韻論」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「音声学と音韻論」に関する箇所を見ながら再確認する。
3回	授業内容	調音
	事前学修	参考図書の「調音」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「調音」に関する箇所を見ながら再確認する。
4回	授業内容	母音と子音
	事前学修	参考図書の「母音と子音」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「母音と子音」に関する箇所を見ながら再確認する。
5回	授業内容	音素・音声素性
	事前学修	参考図書の「音素」「音声素性」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「音素」「音声素性」に関する箇所を見ながら再確認する。
6回	授業内容	音節
	事前学修	参考図書の「音節」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「音節」に関する箇所を見ながら再確認する。
7回	授業内容	アクセント・語アクセント
	事前学修	参考図書の「アクセント」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「アクセント」に関する箇所を見ながら再確認する。
8回	授業内容	句アクセント・リズム・イントネーション
	事前学修	参考図書の「アクセント」「リズム」「イントネーション」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「アクセント」「リズム」「イントネーション」に関する箇所を見ながら再確認する。
9回	授業内容	意味の研究・多義性と同義性・前提と含意
	事前学修	参考図書の「意味論」「多義性と同義性」「前提と含意」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「意味論」「多義性と同義性」「前提と含意」に関する箇所を見ながら再確認する。
10回	授業内容	他動性・アスペクト・「事実」と「想定」
	事前学修	参考図書の「他動性」「アスペクト」「ムード」「モダリティ」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「他動性」「アスペクト」「ムード」「モダリティ」に関する箇所を見ながら再確認する。
11回	授業内容	認知意味論
	事前学修	参考図書の「認知意味論」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「認知意味論」に関する箇所を見ながら再確認する。
12回	授業内容	メタファー・メトニミー
	事前学修	参考図書の「メタファーとメトニミー」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「メタファーとメトニミー」に関する箇所を見ながら再確認する。
13回	授業内容	形式意味論
	事前学修	参考図書の「形式意味論」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「形式意味論」に関する箇所を見ながら再確認する。
14回	授業内容	語用論・「協調の原理」
	事前学修	参考図書の「語用論」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「語用論」に関する箇所を見ながら再確認する。
15回	授業内容	ポライトネス
	事前学修	参考図書の「ポライトネス」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「ポライトネス」に関する箇所を見ながら再確認する。

◆教科書 なし

◆参考書(参考文献等)

市販本	『日英語対照による英語学概論』 西光義弘 編 くろしお出版
-----	-------------------------------

市販本	『英語学入門』 安藤貞雄・澤田治美 編 開拓社
-----	-------------------------

市販本	『日英対照 英語学の基礎』 三原健一・高見健一 編 くろしお出版
-----	----------------------------------

◆成績評価基準 メディア授業受講状況(質疑応答、ディスカッション) 20%, 理解度チェック 10%, 最終試験 70%

◆東洋史概論／東洋史概説 MA (開講単位数:2単位)

担当者:高綱 博文

充当科目コード : K32300 (東洋史概論) (法学部のみ)

Q30300 (東洋史概説) (法学部以外の学部)

配当学科 : 全学科・専攻 (在籍学部によって充当科目が異なるため注意すること)

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 本授業はアヘン戦争から改革・開放政策により超大国化した中国の近現代史を多くの図像や映像など使用しながら物語るものである。

◆学修到達目標 中華帝国の解体からネーション・ステートとしての再生の歴史ドラマをたどることによって、近代中国の苦悩を理解し、世界の中における中国とは何であるかについて考えることを目標とする。

◆授業方法 メディアを利用しての授業を中心としながら、テキスト及び参考書等による自己学修を併用する。

◆授業計画

	授業内容	中国概論
1回	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の1～185頁までを読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点を確認しておくこと。
2回	授業内容	アヘン戦争
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の186～205頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
3回	授業内容	太平天国運動
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の186～205頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
4回	授業内容	洋務運動と変法運動
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の186～205頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
5回	授業内容	辛亥革命
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の206～221頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
6回	授業内容	五・四運動
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の222～236頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
7回	授業内容	国民革命
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の222～236頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
8回	授業内容	満洲事変
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の237～254頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
9回	授業内容	日中全面戦争
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の237～257頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
10回	授業内容	中華人民共和国の誕生
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の255～271頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
11回	授業内容	文化大革命
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の255～271頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。
12回	授業内容	改革・開放政策下の中国
	事前学修	通信教育教材『東洋史概説』の272～292頁までを読んでおくこと。
	事後学修	参考書を読んで授業の要点を確認しておくこと。

◆教科書 通材『東洋史概説 Q30300／東洋史概論 K32300』通信教育教材 (教材コード 000523)

◆参考書(参考文献等) 市販本『シリーズ中国近現代史』岩波新書 2010～2011年

◆成績評価基準 メディア授業受講状況 (質疑応答, ディスカッション) 25%, 理解度チェック25%, 最終リポート試験50%

◇経済学概論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:関谷 喜三郎

充当科目コード : R20300

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 経済学部は1学年以上, その他の学部は2学年以上

◆授業概要 ミクロ経済学について学びます。ミクロ経済分析に必要な需要曲線・供給曲線を理解し, それにもとづいて市場メカニズムを説明していく。

◆学修到達目標 1. 家計と企業の行動分析を通じて需要曲線と供給曲線を理解する。2. 市場における価格決定と資源の効率的配分について学ぶ。3. 不完全市場における市場の失敗をさまざまな側面から学ぶ。

◆授業方法 教材にしたがって通信機器を通じて行なう。

◆授業計画

授業内容		
1回	事前学修	特に準備は必要ない
	事後学修	ミクロ経済学の全体像を把握する
2回	授業内容	家計の行動
	事前学修	消費者行動の概念についてみておく
	事後学修	最適消費計画について理解する
3回	授業内容	最適選択
	事前学修	代替効果・所得効果についてみておく
	事後学修	需要曲線の導出を理解する
4回	授業内容	無差別曲線分析の応用
	事前学修	テキストの関連するところをみておく
	事後学修	応用分野についてその内容を確認しておく
5回	授業内容	企業行動：利潤最大化
	事前学修	生産関数の意味を理解しておく
	事後学修	利潤最大化条件を理解する
6回	授業内容	企業行動：費用曲線
	事前学修	費用曲線の基本的な内容をみておく
	事後学修	供給曲線の導出を理解する
7回	授業内容	企業行動：費用最小化
	事前学修	等費用線分析について確認しておく
	事後学修	費用最小化の意味を理解する
8回	授業内容	競争均衡
	事前学修	完全競争市場の価格決定をみておく
	事後学修	最適資源配分について理解する
9回	授業内容	不完全競争：独占
	事前学修	不完全競争市場について理解しておく
	事後学修	独占市場の価格と生産量の決定を理解する
10回	授業内容	不完全競争：寡占
	事前学修	寡占市場における企業行動をみておく
	事後学修	ナッシュ均衡について理解する
11回	授業内容	不確実性
	事前学修	不確実性・リスクの意味を確認する
	事後学修	不確実性下の企業行動について理解する
12回	授業内容	政府と市場の役割
	事前学修	公共財・外部効果の意味を確認する
	事後学修	市場の失敗について理解する

◆教科書 通材『経済学概論 R20300』通信教育教材 (教材コード 000244)

◆参考書(参考文献等) 市販本『ミクロ経済学』 関谷喜三郎著 創成社

◆成績評価基準 最終試験を中心にしてメディアの利用状況, 提出物, レポートにて評価します。

◆日本経済論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:佐久間 隆

充当科目コード : R31000

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 日本経済の特徴点について理解するためのトピックスを取り上げます。そして、経済学の基礎概念と経済データを用いて検討を加えます。

◆学修到達目標 日本経済論MB（後期）と併せて履修することにより、次の2点を目指します。1　日本経済の特徴や日本で行われている経済政策について説明できる。2　日本経済の状況に変化が生じた際に、経済データや経済政策について自ら調べ考えることができる。

◆授業方法 基本的に教科書に沿って講義を行います。分かりやすく説明するため例示などで適宜補足したり、教科書出版後に公表された経済データを紹介したりもします。自習のために課題を提示します。

◆授業計画

授業内容		
1回	事前学修	授業のねらい、教科書の特色、授業の進め方日本経済へのアプローチの仕方にについて確認します。 教科書の1~4ページおよび10~13ページを読んでポイントをつかんでください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返したうえで、教科書全体がどのような構成になっているか確認してください。自習課題として年代ごとに選んだ経済白書（経済財政白書）に、ざっと目を通してみてください。
2回	授業内容	使用する経済学の基礎概念について確認し、日本経済を学ぶ上で経済データを併せ用いることが大切であることを理解します。
	事前学修	教科書の14~21ページを読んで、この授業で用いる経済学の基礎概念と経済データを確認してください。
3回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として総務省の「世界の統計」で他の国での高い成長の例を探してみましょう。
	授業内容	経済成長論の枠組みの中で高度成長を理解し、なぜ高い成長が可能だったのかを明らかにします。
4回	事前学修	教科書の29~35ページを読んで経済成長論の見方をつかんでください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として総務省の「世界の統計」で他の国での高い成長の例を探してみましょう。
5回	授業内容	高度成長の終了からバブル経済とバブル崩壊後の低迷に至った過程を振り返ります。
	事前学修	教科書の35~38ページおよび40~44ページを読んでこの時期の日本経済に次々と起きた出来事の流れをつかんでください。
6回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返し、この間に起きた事象の因果関係をフローチャートにしてみてください。自習課題として実質金利と為替レートについて計算してみると、金融や国際経済の基本的な考え方を間違えることなく実際の問題の考察に使えるようになります。
	授業内容	バブル崩壊後に失業が増え、緩やかながら長く続くデフレに陥った状況をみます。
7回	事前学修	教科書の44~48ページを読んでこの時期の労働市場と物価動向に生じた変化を読み取ってください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として労働市場の需給を示す完全失業率の動きが何を示しているのか考えてみましょう。
8回	授業内容	低迷期の経済実態を金融面、国際経済面からみるとともに、バブルが生成し崩壊した過程とその原因について考えます。
	事前学修	教科書の48~57ページを読んでバブルが何を意味するのか、経済にどのような影響を与えるかをつかんでください。
9回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として為替レートの増減・減価と貿易の関係について考えてみましょう。また、世界各国におけるバブルとその崩壊の事例を探してみましょう。これまでのノートと教科書の該当部分を読み返して1回目の理解度チェックに向け準備してください。
	授業内容	低迷期における日本の労働市場で失業が増加した理由を需要不足とミスマッチの観点から探ります。
10回	事前学修	教科書の60~66ページを読んで失業の発生を理論的に説明する基本的な考え方をつかんでください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として労働統計の出典に当たるとともに、教科書で示した失業の要因が最近時点ではどうなっているかみてみましょう。
11回	授業内容	日本の所得格差について、格差を示す指標によって、他の国と比較し、時間の経過とともにどう変化したかをみます。格差の例として、日本における男女賃金格差について考えます。
	事前学修	教科書の66~74ページを読んで格差を客観的にとらえるためには何が必要なのかつかんでください。
12回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として教科書の事例に変更を加えて格差指標への理解を深めましょう。
	授業内容	日本における中小企業とベンチャー企業の状況についてみます。
13回	事前学修	教科書の76~84ページを読んで企業規模の分け方と企業規模別にみた傾向を読み取ってください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として経済センサスの新しいデータをみて最近の変化を見てみましょう。
14回	授業内容	日本の開業率が低い理由を探り、中小企業や新規企業に求められる役割について考えます。
	事前学修	教科書の85~92ページを読んで日本の起業環境や中小企業支援策の課題をつかんでください。
15回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として日本の企業支援の実際をみてみましょう。第7回以降のノートと教科書の該当部分を読み返して2回目の理解度チェックに向け準備してください。
	授業内容	データによって日本の産業構造の変遷をみたうえで、産業構造の変化が必要な理由について考えます。
16回	事前学修	教科書の94~98ページを読んで産業ごとに異なる動きを読み取ってください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として日本における産業分類の詳細とその変遷をみてみましょう。
17回	授業内容	IT革命が経済成長に持つ意味を考え、日本経済におけるIT利用の課題を明らかにします。
	事前学修	教科書の99~104ページを読んでITの発達が革命とまで呼ばれる理由やIT利用の面で日本経済が直面している課題をつかんでください。
18回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として米国のIT関連大手企業やGDP統計における無形資産の取り扱いについて調べてみましょう。
	授業内容	高度成長期における公害問題と近年の地球環境問題について、問題発生と解決へ向けての対処の違いを考えます。
19回	事前学修	教科書の106~114ページを読んで公害問題と地球環境問題の性格の違いをつかんでください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として高度成長期の公害問題の映像記録をみて、当時と現在の間に起こった変化について考えてみましょう。
20回	授業内容	地球環境問題には経済学的アプローチが有効であることを理解するとともに、原発の過酷事故を経験した日本におけるエネルギー源の選択の問題について考えます。
	事前学修	教科書の114~123ページを読んで環境問題への対処方法と日本のエネルギー政策について理解してください。
21回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として地球環境問題への対処としての税制やエネルギー政策についての政府資料を読んで問題への理解を深めましょう。
	授業内容	11回以降のノートと教科書の該当部分を読み返して3回目の理解度チェックに向け準備してください。
22回	授業内容	各章の内容を振り返り、キーワード理解を確認します。また、最終リポート試験に向けての注意事項を説明します。
	事前学修	第1章から第14章まで履修済みであること、3回の理解度チェックをすべて終了していることを確認してください。
23回	事後学修	ノート全体と教科書第一部を読み返して理解が十分でないところがあつたら補ってください。

◆教科書 市販本『日本経済論』宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之著 中央経済社

◆参考書(参考文献等) 市販本『岩波講座 日本経済の歴史第5巻』現代1 深尾京司・中村尚史・中林真幸編 岩波書店

市販本『岩波講座 日本経済の歴史第6巻』現代2 深尾京司・中村尚史・中林真幸編 岩波書店

市販本『やってみよう景気判断 指標でよみとく日本経済』高安雄一著 学文社

◆成績評価基準 質疑応答、ディスカッションを含む受講状況(10%)、理解度チェック(30%)および最終リポート試験(60%)により総合的に評価します。

◆国際経済論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:前野 高章

充当科目コード : R31100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 このメディア授業では、国際経済学に関する基礎理論およびその政策論関連内容を中心に解説を進めていく。講義は、世界経済発展の歴史、戦後の国際通貨秩序の確立および自由貿易体制の形成、経済構造の変質そして国際通貨制度の変遷を踏まえ、基礎理論としての比較優位の理論、国際貿易に関する純粹理論および国際貿易政策について逐次に解説していく。

◆学修到達目標 本講義では、現実の国際経済の歴史的変遷をふまえながら、世界経済の生成過程および国際分業体制の変化・進展に沿って国際貿易理論がどのように展開されてきているのかを理論的に把握する。最終的には、国際経済現象をモデル化し分析する能力を養い、変化の激しいグローバル経済の特徴や課題を理解することを目的とする。

◆授業方法 インターネットを通じてメディア教材から学修をする。メディア授業の素材構成は本通信教育教材『国際経済論』の第1章と第2章に基づいている。国際経済論は応用経済学分野の科目であるため、経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することを強く勧める。事前にミクロ経済学関連の基礎理論を復習すること。

◆授業計画

	授業内容	第二次大戦までの世界経済の生成と発展
1回	事前学修	教科書第1章第1節から第3節を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
2回	授業内容	戦後の世界経済の発展とその特徴
	事前学修	教科書第1章第4節から第5節を中心に読んでおく。
3回	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	戦後の経済体質と経済構造の変質
4回	事前学修	教科書第1章第6節を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
5回	授業内容	1990年代以降の世界経済の変貌
	事前学修	教科書第1章第7節を中心に読んでおく。
6回	事後学修	第1回から第4回までの講義内容をもとに、世界経済の発展の歴史とその変遷についてノートにまとめる。
	授業内容	伝統的貿易理論
7回	事前学修	教科書第2章での国際貿易の基礎と伝統的貿易理論の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
8回	授業内容	新古典派の貿易理論
	事前学修	教科書第2章での新古典派貿易理論の箇所を中心に読んでおく。
9回	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	近代的貿易理論
10回	事前学修	教科書第2章での近代貿易理論の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
11回	授業内容	国際貿易の純粹理論による説明—その1
	事前学修	教科書第2章第3節の前半部分を中心に読んでおく。
12回	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	国際貿易の純粹理論による説明—その2
	事前学修	教科書第2章第3節の後半部分を中心に読んでおく。
	事後学修	第8回から第9回までの講義内容をもとに、国際貿易の純粹理論について図を使って重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	関税と経済厚生
	事前学修	教科書第2章第5節の前半部分を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	輸出入政策と管理貿易
	事前学修	教科書第2章第5節の後半部分を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
	授業内容	自由貿易と保護貿易
	事前学修	教科書第2章第5節の自由貿易と保護貿易の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	第10回から第12回までの講義内容をもとに、貿易政策および自由貿易と保護貿易をとらえる視点の重要なポイントをノートに整理する。これまでまとめたノートを復習し、各回での重要なポイントを整理する。

◆教科書 通材『国際経済論 R31100』通信教育教材（教材コード 000281）

◆参考書(参考文献等) 特になし

◆成績評価基準 平常点60%（リポート形式の理解度チェック：40%，メディア授業の受講状況：20%）と最終試験40%による総合評価。ただし、最終試験を受けていることが単位修得の条件となる。

◇情報概論 MA (開講単位数:2単位)

担当者:久東 義典

充当科目コード : R32300

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 現代社会は、情報社会といわれます。いたるところにコンピュータの機能をもった電子機器が存在し、日常生活に変革をもたらしています。こうした「情報社会」のベースとなっている考え方をWebによる学習方法でいつでもどこでも実践的に（ユビキタスコンピューティングの体験をしながら）、情報を科学的捉えること、情報を技術的に扱うこと、さらにはコミュニケーションの道具として理解することを体系的に学習します。

◆学修到達目標 情報機器やデジタル家電製品の基本となるコンピュータのハードウェア、ソフトウェアの仕組みと原理の基礎を把握することを目的とします。通常意識せず利用している情報化技術についての正しい知識を得ることにより、ビジネスや日常生活において、情報を効率よく安全に利用できる能力を高めることをめざします。コンピュータの初心者を対象としています。

◆授業方法 Webを用いた在宅学習で授業を実施していきます。受講者は、教科書の該当する章をよく読んでノートにまとめてから、Webでの学習を進めてください。毎回練習問題にトライし、さらに総合的・多面的に理解するため数回経ると理解度チェック（全4回）にトライします。これらが本当に理解できたかを最終試験として、レポート提出し、取り組みに対して総合評価します。

◆授業計画

1回	授業内容	コンピュータの構造 パソコンのカタログを調べてみると、細かい数字や難しい用語が並んでいます。これらは、パソコンのハードウェアの性能を表しています。パソコン内部を目にする機会はありませんが、中身についての概要が理解できれば、これらの数字の持つ意味が分かってきます。今回は、ハードウェアの構成や特徴について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
2回	授業内容	CPUの動作原理 デジタルコンピュータは、パソコンでもスマートフォンでもその動作原理は同じで、非常に単純なものです。この動作原理を理解することによってコンピュータの動作で注意すべきことが分かります。今回は、デジタルコンピュータの開発の歴史と共に、基礎的な動作原理について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
3回	授業内容	演算処理 半導体を使うと0と1の1桁の足し算が実現できることを学習してきましたが、2進数の考え方を使うと、この足し算を利用しても複雑な計算ができることがあります。今回は、2進数の基礎を学習し、複雑な計算がどのように実現されるのかを見ていきます。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
4回	授業内容	情報量 デジタルカメラのメモリには「512メガバイト」となどと書いてあります。一般的に数字が大きくなるほど高価になりますが、それだけ性能も向上します。性能が向上するというのではなく、記憶できる量が増えるということです。今回は、これらの数字の意味を理解し、記憶できる量とは何なのかを学びます。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
5回	授業内容	マルチメディア表現 かつては音楽をCDやMDで聞くのが普通でしたが、今では携帯電話やMP3プレーヤなど、記録しているメディアが見えない軽い機器に大量の曲が録録できるようになりました。また、最近ではパソコンや携帯電話でテレビが見られたり、ハーフディスクレコーダーで長時間録画ができるようになりました。これらは、音楽や映像のデジタル化によって可能になっています。今回は、音楽や映像のデジタル化はどういうことか、またその情報量をどう測るかについて学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
6回	授業内容	データ通信 ホームページを閲覧するのに、自宅からアクセスした場合と、ホットスポットなどの外部からアクセスした場合とでは体感速度が大きく異なることがあります。このような通信速度の違いは客観的な数字で表すことができます。今回は、通信速度の定義を知るとともに、データをより速く通信するための圧縮方法や、誤りなく通信するための誤り検出方法について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
7回	授業内容	オペレーティングシステム 新たにパソコンを購入するときの大きな選択はWindowsにするかMacにするかです。Windowsのほうが使えるビジネスソフトの数が多く、一方、Macのほうがデザイン作業に優れていると言われ、それぞれに一長一短があつて選択に迷うところです。WindowsとMacの本質的な違いとはハードウェアの差ではなく、基本ソフトであるオペレーティングシステムの違いです。今回は、オペレーティングシステムとは何かについて学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
8回	授業内容	表計算 コンピュータは日本語で言うと計算機ですが、文書作成にもインターネット利用にても、あまり計算をしている印象がありません。本来、コンピュータの最も得意とする計算を有効に利用するのがExcelなどの表計算ソフトです。家庭ではありませんが、学校や会社ではとても重宝する重要なソフトウェアです。今回は、表計算ソフトの基本的な使い方について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
9回	授業内容	データベース理論 コンサートチケットや電車の指定券の予約は、オンラインで接続されたコンピュータによって処理されています。全国にいる多くの人が同時に予約を入れても二重登録されないようにするために、コンピュータ上ではデータベースシステムがデータを管理しています。今回は、データベースの基礎理論について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
10回	授業内容	データベース記述 コンサートチケットや電車の指定券の予約は、オンラインで接続されたコンピュータによって処理されています。全国にいる多くの人が同時に予約を入れても二重登録されないようにするために、コンピュータ上ではデータベースシステムがデータを管理しています。今回は、データベースの基礎理論について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
11回	授業内容	プログラミングの基礎 コンピュータのソフトウェアにはワープロ、表計算などがありますが、これらは、プログラムという命令の集まりによって記述されています。プログラムの基本は比較的単純であり、それを論理的に組み立てていくことで複雑な作業を実現することができます。今回は、コンピュータソフトウェアを作成するためのプログラミングの基礎知識について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
12回	授業内容	アルゴリズム 汎用性の高い手続型のプログラミング言語では、処理を逐一記述しなければなりません。CPUが解釈できる命令は限られているため、処理はコンピュータが実現しやすい手順に書き下す必要があります。現実的な時間で解を求めることができる効率的な方法を考えなければなりません。今回は、プログラムの処理を考えるための記述法を学び、並べ替えの処理を例としてプログラムの実現法を学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することができます。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。

◆教科書 通材『情報概論 R32300』通信教育教材 (教材コード 000453)

◆参考書(参考文献等) ITパスポート試験教科書 (出版社不問), 基本情報技術者試験教科書 (出版社不問)

◆成績評価基準 最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇商学総論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:金 雲鎬

充当科目コード : S20100

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 商学部は1学年以上, その他の学部は2学年以上

◆授業概要 「商業」と言われると、コンビニやスーパーでの買物をイメージする人も多いと思います。この授業では、商品が店頭に並ぶまでの見えない世界に対する理解を深めることを1つの目標とします。前期には商品の取引と卸・小売システムについて基礎から説明します。また市場に対する理解を深める必要があることから、マーケティングの諸概念及び基礎理論も紹介します。

◆学修到達目標 マーケティングと流通システムの基礎概念と理論を理解して、自分の言葉でその概念や原理を説明できるようになることが学修到達目標です。

◆授業方法 この授業は講義型授業です。講義内容の中で理解できないことがある場合に、繰り返して動画を再生することをお勧めします。

◆授業計画

回	授業内容	授業内容
1回	事前学修	オリエンテーション, 商業とマーケティング①「マーケティング・マネジメント論」 特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
2回	授業内容	商業とは何か①「流通の定義, 商業者の存在意義」
	事前学修	参考書の第1章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
3回	授業内容	商業とは何か②「流通における費用, 生産者・消費者の流通費用」
	事前学修	参考書の第1章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
4回	授業内容	商業とマーケティング③「製品差別化」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
5回	授業内容	商業とマーケティング④「市場, そして市場細分化」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
6回	授業内容	商業とマーケティング⑤「製品ライフサイクル」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
7回	授業内容	流通における構造①「小売商業の構造」
	事前学修	参考書の第2章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
8回	授業内容	流通における構造②「卸売商業の構造 i」
	事前学修	参考書の第3章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
9回	授業内容	流通における構造③「卸売商業の構造 ii」
	事前学修	参考書の第3章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
10回	授業内容	流通における関係①「生産者による流通系列化」
	事前学修	参考書の第7章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
11回	授業内容	流通における関係②「商業におけるパワー関係」
	事前学修	参考書の第6章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
12回	授業内容	流通における関係③「商業における信頼関係」
	事前学修	参考書の第5章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
13回	授業内容	流通における関係④「チェーンストア理論」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
14回	授業内容	全体復習①「商業とマーケティング」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
15回	授業内容	全体復習②「流通における構造, 流通における関係」
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください

◆教科書 通材『商学総論 S20100』通信教育教材 (教材コード 000356)

◆参考書(参考文献等) 市販本『現代商業学 新版』 高嶋克義著 有斐閣アルマ

◆成績評価基準 レポートによる評価を行います。

◇経営学 MA(開講単位数:2単位)

担当者:高橋 淑郎

充当科目コード : S20200

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 商学部は1学年以上, その他の学部は2学年以上

◆授業概要 現代社会において企業が果たしている役割やその影響力は大きい。企業経営のあり方如何が、国の経済力や国際的競争力のみならず、我々個々人の生き方や暮らしを大きく左右する。一方、私たちと企業との関係を考えれば、①出資者として（金融市場）②従業員として（労働市場）③顧客として（製品・サービス市場）④地域社会のメンバーとして（市場以外）として関係している。さらに、企業、政府、非営利組織が主に社会の組織として機能している中で、企業経営の基本的仕組みとそれを活用してリアル・ワールドを感じて欲しい。

◆学修到達目標 企業の行動原理やメカニズム、企業行動の問題点や改善策などについて学ぶことは、単に経営者や管理者だけでなく、企業との関わり抜きでは生きてゆけないすべての現代人にとって必要なことである。この講義を通じて、企業とはどのような存在であり、どのような指導原理やメカニズムで行動しているのかを学び、健全で有効な企業経営のあり方について考えてほしい。

◆授業方法 メディア授業

◆授業計画

	授業内容	経営学とは
1回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	現代産業社会の特質
2回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	会社の概念と機能
3回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	日本における企業の経営・所有・支配
4回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	企業集団とグループ経営
5回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	企業の目的と経営目標
6回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	経営戦略 1
7回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	経営戦略 2
8回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	経営組織
9回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	経営組織理論
10回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	経営管理
11回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと
	授業内容	企业文化
12回	事前学修	教科書の当該章をノートをとりながら読んでおくこと。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的話題なども含めて復習しておくこと

◆教科書 使用しない

◆参考書(参考文献等) 通材『経営学 S20200』通信教育教材 (教材コード000497)

『経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本』

経営学検定試験協議会監修、経営能力開発センター編 中央経済社、2016年

◆成績評価基準 最終試験を中心に、受講状況や理解度チェックなどを加味し、総合的に評価します。

◇簿記論 I MA(開講単位数:2単位)

担当者:村井 秀樹

充当科目コード : S20300

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 商学部は1学年以上, その他の学科・専攻は2学年以上

◆授業概要 簿記の基本原理は、今から500年程前のルネッサンス時期、イタリアのルカ・パチョリによって体系化された。今では、この複式簿記の基本原理が全世界に普及している。本講義では、貸借対照表と損益計算書の基本構造と、資産、負債、資本(純資産)、収益、費用に含まれる勘定科目とその結びつきをしっかりと理解する。

◆学修到達目標 学修到達目標は、企業のさまざまな取引を複式簿記の原理にもとづいて仕訳し、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)作成までの一連のプロセスを説明できることである。また、日商簿記検定試験3級の資格を取得できるようになる。

◆授業方法 まず、各章の概要を「導入」で説明し、内容の説明、例題の解説、そして設定している問題を実際に解く。しかし、これだけでは不十分であるので、各人で市販されている問題集を利用して解いていただきたい。より多くの問題をこなせば、簿記に対する理解は格段に向上する。

◆授業計画

1回	授業内容	簿記の概要: 簿記の位置づけ、簿記の歴史、簿記の体系、自己点検
	事前学修	通信テキスト第1章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認をすること。
2回	授業内容	複式簿記の構造: 会計公準、資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、自己点検
	事前学修	通信テキスト第2章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
3回	授業内容	複式簿記一巡の手続き: 取引、仕訳と勘定、自己点検
	事前学修	通信テキスト第3章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
4回	授業内容	商品: 記帳方法、仕入諸掛り・発送費・返品・値引などの処理、仕入帳と売上帳、商品有高帳、自己点検
	事前学修	通信テキスト第4章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
5回	授業内容	現金・預金: 現金の範囲、現金出納帳、当座預金、当座預金出納帳、現金過不足、小口現金、当座借越、自己点検
	事前学修	通信テキスト第5章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
6回	授業内容	売掛金・買掛金: 売掛金、買掛金、貸倒れの処理、売掛金・買掛金以外の債権・債務、自己点検
	事前学修	通信テキスト第6章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
7回	授業内容	有価証券: 有価証券の範囲、有価証券の分類と評価、有価証券の売買、自己点検
	事前学修	通信テキスト第7章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
8回	授業内容	受取手形・支払手形: 受取手形・支払手形、約束手形、為替手形、手形の裏書譲渡・割引、受取手形記入帳・支払手形記入帳、手形貸付金・手形借入金、自己点検
	事前学修	通信テキスト第8章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
9回	授業内容	固定資産: 有形固定資産の購入、減価償却、有形固定資産の売却、自己点検
	事前学修	通信テキスト第9章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
10回	授業内容	伝票: 伝票の意味と種類、仕訳伝票、三伝票制、自己点検
	事前学修	通信テキスト第10章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
11回	授業内容	決算: 決算の意味、決算の手順、試算表の作成、棚卸表の作成、決算整理事項、精算表の作成、財務諸表作成手続き、自己点検
	事前学修	通信テキスト第11章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
12回	授業内容	総まとめ: 決算整理事項、精算表、自己点検
	事前学修	通信テキスト第12章をしっかりと読んでおく。
	事後学修	ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。

◆教科書 ○通材『簿記論I S20300』通信教育部教材(教材コード 000454)

◆参考書(参考文献等) 市販本『検定簿記講義 3級商業簿記』 渡部・片山・北村編著 中央経済社

市販本『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』 渡部・片山・北村編著 中央経済社

◆成績評価基準 受講状況を40%、理解度チェックを20%、最終試験を40%として総合的に成績評価を行う

◇貿易論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:松原 聖

充当科目コード : S30400

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 国際貿易、国際収支、外国為替に関する問題を中心とする日本経済・世界経済の諸問題について、履修者が基礎的な知識を得て、同時に分析能力を養うことを狙いとします。主なトピックは以下の通りです：(1) 日本の対外取引の現状、(2) 貿易の利益と国内問題、(3) 貿易実務の基礎、(4) 国際収支、(5) 外国為替市場と為替レート、(6) 海外直接投資と貿易構造。

◆学修到達目標 1. 日本の貿易構造をデータ・理論両面から理解し、比較優位および保護主義の観点からこれらを説明できる。
2. 日本の国際収支および直接投資を理解し、国際経済・マクロ経済の観点からこれらを説明できる。3. 外国為替市場および為替レートの日本経済への影響を理解し、関連する(貿易)実務の基礎を身に着ける。

◆授業方法 講義においては理論の説明だけでなく、統計データや日本経済新聞の記事などを元に、学習到達目標に掲げた点を重視しながら、授業概要に挙げた諸問題を説明します。日本経済新聞その他新聞の関連記事を合わせて読むと良いでしょう。新聞・テレビの経済ニュースを、講義で学んだ内容を参考に見ると、講義の理解がさらに深まります。

◆授業計画

1回	授業内容	財務省「貿易統計」を参照しながら、日本の貿易の概要（全体的傾向、主な貿易相手国・地域、主な輸出品・輸入品など）を確認する。
	事前学修	教科書第1章を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容	比較優位の原理 I: リカードの貿易理論 を説明する。
	事前学修	教科書第2章(20ページまで)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授業内容	(ミクロ)経済学の基礎である「需要・供給分析」を説明する。
	事前学修	教科書第2章補論を読んでおくこと。
	事後学修	講義内容を整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容	比較優位の原理 II: ヘクシャー・オリーンの貿易理論を説明する。
	事前学修	教科書第3章を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容	保護主義に関するいくつかの議論を説明する。
	事前学修	教科書第4章を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容	貿易実務の基礎的な内容(その1)を説明する。
	事前学修	教科書第5章(68ページまで)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容	貿易実務の基礎的な内容(その2)を説明する。
	事前学修	教科書第5章(68~70ページ)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容	国際収支表について説明する。
	事前学修	教科書第6章(82ページまで)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容	(日本の)国際収支とマクロ経済との関係について説明する。
	事前学修	教科書第6章(82~90ページ)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容	外国為替市場と為替リスクについて説明する。
	事前学修	教科書第7章(100ページまで)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容	為替レートと日本経済の関係について説明する。
	事前学修	教科書第7章(100~107ページ)を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容	海外直接投資について説明する。
	事前学修	教科書第8章を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を確認し理解しておくこと。

◆教科書 通材『貿易論 S30400』通信教育教材 (教材コード 000439)

◆参考書(参考文献等) 市販本『マンキュー入門経済学(第2版)』N. グレゴリー・マンキュー著 足立ほか訳

東洋経済新報社 2014年

市販本『徹底解説 国際金融～理論から実践まで』 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著
日本評論社 2016年

◆成績評価基準 メディア授業受講状況(質疑応答、ディスカッション)25%, 理解度チェック25%, 最終リポート試験50%

◆広告論 MA(開講単位数:2単位)

担当者:雨宮 史卓

充当科目コード : S30900

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 マーケティングのフレームワークの一要素である「広告」、及び製品戦略の一領域を超えて、独立した領域を築いている「ブランド」に対する研究の重要性が高まっている。テレビを見ない日はあっても広告を見ない日はないと言っても過言でないくらい、広告は我々の生活に深く浸透し、もはや広告は生活の一部である。そのため、本メディア授業では広告の基本的機能・役割の理解を目指し、広告とブランド・コミュニケーションに焦点をあてる。企業の広告戦略及びブランド戦略を学びながら、人々の欲求を創造するコミュニケーション活動である広告を生活全体や文化といった広い視点で理解できる事を心掛ける。

◆学修到達目標 1. 広告の基本的機能と役割が理解できる。2. 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でこれらが、どのように機能しているかを説明できる。

◆授業方法 収録されている授業をよく聞いて理解するように心掛けてください。テキストには書いていない事も収録されていますが、必ず理解できる内容です。授業内容と教科書が重複する箇所は復習を兼ねて熟読することでさらに理解が深まります。毎回、授業内容のノートを作成するように心掛けてください。

◆授業計画

	授業内容	マーケティングとプロモーションの関係
1回	事前学修	テキスト第1章の部分をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキストの15頁の図と授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容	サービスと価格
	事前学修	テキスト120~125頁をよく読み、サービスの特徴を理解しておくこと。
3回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、「サービスの評価基準」の図を理解しておくこと。
	授業内容	流通戦略
4回	事前学修	流通の意義・役割を前もって文献やインターネット等で調べておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、「小売りの輪」「真空地帯の理論」を理解しておくこと。
5回	授業内容	プロモーション戦略
	事前学修	テキスト13~20頁をよく読んでおくこと。
6回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、ブッシュ戦略とブル戦略の違いを理解しておくこと。
	授業内容	プロモーションの種類 1(広告の定義・役割)
7回	事前学修	テキスト20~21頁、及びテキスト31~36頁の「広告」の部分をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容	プロモーションの種類 2(広告の基本過程、人的販売、PR活動、狭義の販売促進)
	事前学修	前回の授業の内容をノートで確認し、テキスト20~29頁をよく読んでおくこと。
9回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、人的販売、PR活動の内容を理解すること。さらに狭義の販売促進の種類を頭に入れておくこと。
	授業内容	広告戦略 1(広告の種類、コモディティ商品の広告戦略)
10回	事前学修	テキスト41~50頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容	広告戦略 2(高価格商品の広告戦略)
	事前学修	テキスト36~41頁、及びテキスト109~116頁をよく読んでおくこと。
12回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。また、「消費者へのシグナル」の内容を理解しておくこと。
	授業内容	ブランド戦略
13回	事前学修	テキスト135~152頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容	ブランド・マーケティング
	事前学修	テキスト155~167頁をよく読んでおくこと。
15回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、テキスト159頁の表におけるブランドの視点9項目を理解しておくこと。
	授業内容	経験価値と総称ブランド
16回	事前学修	テキスト189~210頁を熟読し、199頁の図が意味する内容を把握しておくこと。
	事後学修	経済価値としての経験価値を認識した上で、経済価値の変遷をテキスト192頁の表を参照して理解しておくこと。
17回	授業内容	ストアのブランド概念
	事前学修	テキスト第10章をよく読んでおくこと。
18回	事後学修	授業の内容をノートに整理し、内食、中食、外食の概念を理解しておくこと。
	授業内容	消費者行動 1(マゾーロー欲求五段階説、顧客購買への心理的プロセス)
19回	事前学修	テキスト105~109頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、107頁の図をノートに書き写しておくこと。
20回	授業内容	消費者行動 2(プロスペクト理論、採用者カテゴリー)
	事前学修	前回の授業の内容をノートで確認しておくこと。
21回	事後学修	授業の内容をノートに整理しておくこと。
	授業内容	広告論 MA の総復習
22回	事前学修	今までの授業内容をノートで確認しておくこと。
	事後学修	テキスト全体を読み返し、それぞれの当該箇所をノートで確認し、広告理論・戦略、ブランド概念を理解すること。

◆教科書 市販本『広告コミュニケーション』 雨宮史卓 八千代出版

◆参考書(参考文献等) 特になし

◆成績評価基準 全ての単元を受講していることが評価の前提条件となります。その上で、理解度チェック(30%)、最終試験(70%)で評価をします。

◇現代教職論 M(開講単位数:2単位)

担当者:古賀 徹

充当科目コード:T10100

配当学科:全学科・専攻

配当学年:2学年以上

◆授業概要 「理想とする教師像」とはどのようなものか。本授業では、教職の意義、教員の資質、および教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めることをねらいとしている。特に現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考えていくことにより、受講者が教職への意識を高めていくようにとしていきたい。

◆学修到達目標 次の事項について理解を深め、教員としての意識を高めることができる。
①教職の意義とは何か。
②教員に必要とされる資質・能力とは何か。
③学校教育という独特の社会における意義や教員の同僚性について。
④教員の職務や身分上の問題について。
⑤生徒の成長・発達差の理解。
【以上を、歴史的、国際的、および現代の課題という点から作成した教材により考え、理解を深める】

◆授業方法 コンテンツを視聴し、参考文献等も活用しながら教材の内容について考え深める。教材内の書き込み欄や理解度チェック等により理解度を確認する。各種の掲示板を使って質疑応答もできる。

◆授業計画

授業内容		
1回	授業内容	教職の教育—教員養成と現職教員の成長
	事前学修	自身が目指す「教職」についてのイメージを手元に「複数」書き出しておくこと。
	事後学修	コンテンツの内容を5分程度で概説できるように(短い論述で)まとめる。
2回	授業内容	教師の仕事—教科指導・生活指導・学級経営
	事前学修	次の用語でイメージできることを書き出しておく。「校務分掌」「教科指導」「生活指導」。
	事後学修	「学校の存在意義」(教科指導・生活指導)について説明文を(短い論述で)まとめる。
3回	授業内容	子ども(生徒)とのかわり—生徒理解と授業の前提条件
	事前学修	「わかる」(理解する)とはどのようなことか。その説明概念を(複数)考えておく。
	事後学修	学校でのコミュニケーションの意味や意義について(短い論述で)まとめる。
4回	授業内容	様々な集団への対応(1)—集団活動を通じて学んでいく生徒たち
	事前学修	「総合的な学習の時間」の目標や意義は何かについて、メモとして書きしておく。
	事後学修	「集団で学ぶ」ことを指導していくことの大切さや難しさについて説明文を書く。
5回	授業内容	様々な集団への対応(2)—集団指導・グループ学修の方法論
	事前学修	集団指導の意義や難しさ(問題点)について、イメージすることをメモで用意しておく。
	事後学修	コンテンツの内容について感想をまとめて「集団指導の意義」について論述する。
6回	授業内容	最近の子ども事情(1)—非行・ストレス・いじめ
	事前学修	青少年の「非行」や「いじめ」について、白書や記事等のデータ類を探して読んでおく。
	事後学修	青少年と「ストレス」の問題について、短い論述をまとめるトレーニングをする。
7回	授業内容	最近の子ども事情(2)—不登校への対応
	事前学修	「不登校」に関する記事等を読み、イメージをまとめておく。
	事後学修	青少年の問題行動に対応する教員の立ち位置について、短い文での表現を工夫する。
8回	授業内容	教員養成の歴史(1)—戦前の教員養成
	事前学修	明治期(近代化の当初)の教育について、文献(事典等もあり)を読んでおく。
	事後学修	近代教育の展開を理解し、まとめる(文章で表現する)。
9回	授業内容	教員養成の歴史(2)—戦後の教員養成
	事前学修	戦後の教育に関する概説書を読んでおく。
	事後学修	戦時期から戦後の教育発展の歴史について「教員」の視点からまとめる。
10回	授業内容	世界の教員養成
	事前学修	日本以外の国の「教育(学校)」についてイメージをまとめるメモを用意する。
	事後学修	欧米の教育との違いや共通点について短い文で論述できるようにする。
11回	授業内容	教員に関する法令—地位、身分、研修、免許更新制
	事前学修	各種文献に載っている「法令」類を一読しておく。
	事後学修	教員養成ではなく「講習」のもつ意味や意義について説明文を書く。
12回	授業内容	教室に立つために—教育実習と学修指導案の構成
	事前学修	自分が実習で教壇に立つことをイメージして指導計画デザインのメモを記す。
	事後学修	学習指導案づくりに慣れるため、様々な内容・範囲の授業案を作成する。

◆教科書 通材『現代教職論 T10100』通信教育教材(教材コード 000541)

◆参考書(参考文献等) 『求められる教師像と教員養成』 山崎英則・西村正登編 ミネルヴァ書房
『転換期の教師』 油布佐和子著 放送大学教材

◆成績評価基準 最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◆教育原論／教育の思想 M(開講単位数:2単位)

担当者:北野 秋男

充当科目コード: 2011年度1学年入学, 2012年度1学年入学, 2学年編・再入学,
2013年度1学年入学, 2・3学年編・再入学, 2014年度以降の入学生及び
科目履修生はT10200 (教育原論)
上記以外の学生はT10300 (教育の思想)

配当学科: 全学科・専攻

配学年: 2学年以上

◆授業概要 主なる教育思想家の核となる教育思想について理解を深めながら、全体として教育思想の歴史的系譜を理解したい。とりわけ、近代教育の中心的テーマである人間の内面形成、近代的な教授学思想、新教育運動、公教育の成立と発展など、重要なテーマに関する教育思想の内容を理解する。教育思想に関連する「ビデオ」や資料などを参考にして、より深く教育思想を理解するとともに、現代的な教育問題との関連についても理解を深めることとする。

◆学修到達目標 現代の教育問題を考える上で、教育思想の歴史的展開を学ぶことは重要である。教育の様々な問題を思想的に学びながら「教育とは何か」を自覚的に問いたいと考える。特に、教育の目的論（人間の内面形成）と教授学思想（一斉教授と個別教授）の展開を中心としながら、国民教育論、新教育理論、脱学校論なども取り上げる予定である。

◆授業方法 ○テキストの主要課題について理解を深めながら、教育思想を理解したい。討論も行う。その他には、「ビデオ」も鑑賞し、学力問題、フリー・スクールなどの現代的な問題にも理解を深めることとする。授業内で簡単なレポート作成と課題報告も行う。最後には、学習内容に関する最終試験を行う。

◆授業計画

	授業内容	なぜ 教育思想を学ぶのか—現代教育の課題と教育思想を学ぶ意味—
1回	事前学修	テキストの序章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	あなたの考える現代教育の課題と問題点をノートにまとめること。
2回	授業内容	コメニウスの教授学—一斉教授の方法—
	事前学修	テキストの第1章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
3回	授業内容	ロック自律論—人間の理性による自律—
	事前学修	テキストの第2章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
4回	授業内容	ルソーの市民教育—子どもの発見—
	事前学修	テキストの第3章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
5回	授業内容	ペスタロッチの人間教育—直観教授の発見—
	事前学修	テキストの第4章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
6回	授業内容	ヘルバートの科学的教育学—教授過程の定型化—
	事前学修	テキストの第5章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
7回	授業内容	フレーベルの幼稚園教育—幼稚園の創設—
	事前学修	テキストの第6章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
8回	授業内容	マンの公教育普及論—教育を受ける権利思想—
	事前学修	テキストの第7章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
9回	授業内容	デューイの新教育思想—児童中心の教育—
	事前学修	テキストの第8章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
10回	授業内容	ニイルの自由主義教育論—フリー・スクールの創設者—
	事前学修	テキストの第9章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
11回	授業内容	ブーバーの教育的出会い—教師と子どもとの関係—
	事前学修	テキストの第10章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
12回	授業内容	イリイチの脱学校論—自由な学習機会の保障—
	事前学修	テキストの第12章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。

◆教科書 市販本『教育思想のルーツを求めて』 関川悦男・北野秋男著 啓明出版

◆参考書(参考文献等) 特になし

◆成績評価基準 授業への参画 (20%) , 理解度チェック (30%) , 最終試験 (50%) で総合的に判断します。

◇教育制度論 M(開講単位数:2単位)

担当者:北野 秋男

充当科目コード : T20200

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために、以下のトピックを取り上げ、多角的な授業を展開する。トピックの容は、近代公教育制度の成立（教育の権利と義務）、現代の学校を取り巻く制度改革や地域との連携、教師職務と専門性、学力と評価制度、教育委員会制度の改革、学校と地域の連携（コミュニティ・スクール）、学校安全への対応などである。現代の教育制度改革の理念や背景を理解したい。

◆学修到達目標 現代の国内外の学校制度改革の様々な動向を、基礎的事項や用語を中心に、分かりやすく解説する。その際に、社会の状況や歴史的背景を理解し、その変化が現代の学校教育にもたらす影響や課題を検討する。また、現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために、政治・経済・福祉・文化などの社会的観点からのアプローチも取り入れ、教育に関する広範囲で深い視野を育成しつつ、教育への基礎的・基本的な視座を養うことを目標にする。

◆授業方法 テキストを事前に丁寧に読んでおくこと。その際には、日本の教育制度の特徴や問題点などを念頭に置きながら読み進めること。新自由主義的な方向へと進む、我が国の教育制度改革の全体像を大まかに理解しておくこと。

◆授業計画

	授業内容	ガイダンス、全体の授業構成、課題の説明、評価方法など、
1回	事前学修	シラバスをよく読み、テキストを購入し、「はじめに」を読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
2回	授業内容	教育の権利と義務、学習権思想、「憲法」や「教育基本法」の理解
	事前学修	テキストの序章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
3回	授業内容	近代公教育制度の成立と展開
	事前学修	テキストの序章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
4回	授業内容	学校選択制度の実態と賛否
	事前学修	テキストの第1章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
5回	授業内容	学級の運営と経営、学級制度の歴史
	事前学修	テキストの第2章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
6回	授業内容	教師の職務と専門性（教師の多忙化）
	事前学修	テキストの第5章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
7回	授業内容	学習指導要領と学力観の変遷
	事前学修	テキストの第3章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
8回	授業内容	教育委員会制度改革の歴史
	事前学修	テキストの第4章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
9回	授業内容	学校・教師と保護者・地域の連携（コミュニティ・スクール設置の経緯）
	事前学修	テキストの第5章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
10回	授業内容	コミュニティ・スクールの全国的動向と実践事例
	事前学修	参考書を使って、全国的な動向や実態を調べておこう。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
11回	授業内容	学力の評価制度
	事前学修	テキストの第6章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
12回	授業内容	格差社会の現状と背景、格差と教育・学力への影響
	事前学修	テキストの第7章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
13回	授業内容	特別支援教育の制度と理念
	事前学修	テキストの第8章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
14回	授業内容	学校の事件・事故・災害と学校安全への取り組み
	事前学修	過去の自然災害、学校内のいじめや暴力など、学校の安全に関する問題を調べる。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめる。
15回	授業内容	社会・教育における課題、授業の総括
	事前学修	テキスト、授業用のノートを丁寧に復習しておくこと。
	事後学修	解答できなかった不明な個所を確認し、復習しておくこと。

◆教科書 『教育学へのアプローチ～教育と社会を考える18の課題～』 北野秋男編著 啓明出版

◆参考書(参考文献等) 『地域運営学校成功への道しるべ』 北野秋男編著 ぎょうせい

◆成績評価基準 授業への参画（20%）、理解度チェック（30%）、最終試験（50%）で総合的に判断します。

◇特別活動・総合的な学習の時間の指導法 M (開講単位数:2単位)

担当者:今泉 朝雄

充当科目コード : T23400 (特別活動・総合的な学習の時間の指導法)

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 「特別活動」と「総合的な学習の時間」は、教科の学習だけでは育成できない児童・生徒の資質・能力を育む機能を持っています。授業では、実践事例を紹介しながら、「特別活動」と「総合的な学習の時間」の実際の指導法が体得できるよう説明します。さらに、講義・演習・グループ討議等、実践につながる指導を行い、実践力の育成を行います。理論と実践を融合した授業を目指します。

◆学修到達目標 特別活動と総合的な学習の時間に関する基礎的な知識が説明できる。学習指導要領改訂の趣旨と要点を説明できる。教育課程における特別活動と総合的な学習の時間の位置付けと各教科等との関連を説明できる。特別活動と総合的な学習の時間の指導計画の作成ができる。具体的な指導法を構成できる。学習活動の基本的な評価ができる。

◆授業方法 講義のみではなく、実際の活動、事例検討、計画案作成作業など能動的学習を積極的に行う。

◆授業計画

回	授業内容	本科目のイントロダクション、特別活動とは何か
1回	事前学修	本時のシラバスを確認しておく
	事後学修	本時で学んだ言葉の定義を自身なりに整理する。両者の教育的意義を整理する。
	授業内容	特別活動の教育的意義
2回	事前学修	自身の経験を振り返り、特別活動がどんな意味があったかを考える。
	事後学修	特別活動の教育的意義について自身なりの言葉で整理する
	授業内容	特別活動の歴史から特徴を理解する
3回	事前学修	戦後教育改革の歴史を概略的に把握しておく。
	事後学修	戦前、戦後の特別活動の歴史について整理してまとめる。
	授業内容	学習指導要領における特別活動の位置付けと指導計画の基礎
4回	事前学修	学習指導要領とは何か、概要を把握しておく。
	事後学修	学級活動の目標、内容を中心に自身なりに分かりやすく簡潔に整理する。
	授業内容	学級活動の指導方法
5回	事前学修	学級活動の経験を思い起こして何をしたかまとめておく。
	事後学修	学級活動の目標、内容を中心に自身なりに分かりやすく簡潔に整理する。
	授業内容	話し合い活動の指導方法
6回	事前学修	話し合い活動はどのようにしたらうまくいくか、経験を元に考える。
	事後学修	学級活動に於ける話し合い活動の意義について自身なりの考えをまとめる。
	授業内容	学校行事の指導方法
7回	事前学修	運動会、修学旅行など学校行事の意義について自身なりの見解をまとめておく。
	事後学修	学習指導要領の位置付けを踏まえながら、学校行事の構成方法を検討してみる。
	授業内容	生徒会の指導方法
8回	事前学修	自身の生徒会の経験をまとめておく。
	事後学修	授業を踏まえてあなたのこれまでの教育体験の教育的意義を整理してまとめる。
	授業内容	総合的学習とは何か
9回	事前学修	過去の総合的学習の内容について振り返りまとめておく。
	事後学修	本時で学んだ総合的学習の特徴と過去の経験との相違点をまとめる
	授業内容	学習指導要領における総合的学習の位置づけ
10回	事前学修	総合的学習がどのような教育的意義を持つものなのか、自身なりに検討する
	事後学修	本時の内容を踏まえ、目標、内容の特徴を整理する。
	授業内容	総合的学習の全体計画
11回	事前学修	過去に経験した総合的学習の全体計画をまとめてみる。
	事後学修	ネット上から計画案を探し、自身なりに特徴をまとめてみる。
	授業内容	総合的学習の指導方法
12回	事前学修	主体的探究とはどのように行けば良いのか、自身なりに検討する。
	事後学修	本時の内容をこれまで見てきた指導計画に照らし合わせて具体化してみる。
	授業内容	総合的学習の指導方法2 ~事例から検討する~
13回	事前学修	前回の内容を具体化するにはどうしたらよいか、検討してまとめる。
	事後学修	本時の内容を参考に、指導方法の具体化を更に深める。
	授業内容	特別活動・総合的学習の評価方法
14回	事前学修	教育評価とは何か、事前に自身なりに学習をする。
	事後学修	これまで学んできた指導計画を元にその評価方法を検討する。
	授業内容	部活動とその課題 / おわりに
15回	事前学修	部活動の自身の経験を踏まえ、どのような教育的意義と課題があったかをまとめる。
	事後学修	部活動の抱える課題について自身なりの見解をまとめる。

◆教科書 特になし。

◆参考書(参考文献等) 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』2017年, 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間』2017年, 関川悦雄・今泉朝雄編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』弘文堂 2019年 2000円 (税別)

◆成績評価基準 理解度チェック(40%), 最終レポート(60%)。

◆備考 本講座は積み重ねての単位取得はできません。

◇教育の方法・技術論MA(開講単位数:2単位)

担当者:壽福 隆人

充当科目コード : T21700

配当学科 : 全学科・専攻

配当学年 : 2学年以上

◆授業概要 学習指導要領に示されているこれからの日本青年に求められる資質・能力を育成するために、情報機器を活用した授業展開ができる教師の育成めざし、教育方法学、教育技術論の基礎を理解する。

◆学修到達目標 教育方法に関する理論の展開を歴史的に理解して、今日の学校教育に必要な基礎的・基本的な教授法と技術に関する知識を獲得できるように学修する。さらに、これからの学校教育に求められる課題に対応できるよう、教育機器を利用した授業、討論など生徒が主体的に考える授業を積極的に展開していく教師となるための具体的教授法を身につける。

◆授業方法 メディア講義における説明を理解するだけでは本講義の目的を達成するためには達成されない。インターネット上で紹介されている様々な学習指導案や授業展開の方法を自ら検索して、講義内容の意味を確認していく必要がある。

◆授業計画

回数	授業内容	授業計画	
		事前学修	事後学修
1回	教育方法学とはどんな学問か	教育原論などこれまでの教職課程科目で学んだことをまとめる	教育方法学の概念についてテキストを参考としてまとめる
2回	わが国の教育方法学研究の歴史	わが国の近代公教育の歴史についてまとめる	わが国の近代公教育に影響した教育方法学についてまとめる
3回	学校教育とカリキュラム	各自の学校歴のなかで「時間割」とはどんなものだったかまとめる	カリキュラムの意味・意義についてまとめる
4回	授業の形態と集団の編成・指導	学年・学級・班など学校に見られる集団にはどのようなものがあるかまとめる	学習集団が持つ意味を考える
5回	授業形態の多様化	各自の学校歴のなかでどのような授業形態があったか思い出してまとめる	講義形式以外のさまざまな授業形態はそれぞれどのような意味を持っていたか考える
6回	学級編成と学級運営	各自の学校歴の中から担任の先生の学級運営に関する工夫について思い出す	学級の役割について考える
7回	小集団指導	各自の学校歴のなかで経験した小グループの活動について考える	小集団編成による指導方法の意義について考える
8回	教育の技術とはなにか	「方法」と「技術」の違いについて考える	テキストを参考にして「技術」を支える思想について考える
9回	授業の展開	各自の学校歴のなかでもっとも楽しかった授業の特徴について考える	インターネット上に公開されている様々な授業を検索して授業について考える
10回	授業の展開を豊かにする物的手段	各自の学校歴のなかで経験がある教具についてまとめる	授業のなかで教具が果たす役割について考える
11回	教育評価	各自の学校歴のなかで成績表にはどのようなものがあったかまとめる	教育評価が生徒に与える影響について考える
12回	教育評価の方法	点数法・序列法・偏差値法など評価表記の方法について調べる	適切な評価方法について考える
13回	ICT教育の現状と課題	ICT教育に用いられる教具にはどのようなものがあるか調べる	ICT教育の将来について考える
14回	学校のICT教育の取り組み	学校で実践されているICT教育の実態を調べてみる。	学校教育用に開発されたICT教育用教材を収集する。
15回	企業のICT教育の取り組み	企業が用いているICT教育の実態を調べる。	企業が用いているICT教育教材を収集する。

◆教科書 市販本 『新訂増補 歴史教育の課題と教育の方法・技術』 壽福隆人監修 DTP出版

◆参考書(参考文献等) 市販本 『教育の方法と技術—改訂版』 柴田義松編集 学文社

市販本 『教育方法学』 佐藤学 岩波出版

市販本 『授業』 斎藤喜博 国土社

◆成績評価基準 最終試験を中心に、受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価する。

◇国文学演習 MA(開講単位数:1単位)

担当者:近藤 健史

充当科目コード : M404S0 (国文学演習 I)

M405S0 (国文学演習 II)

M406S0 (国文学演習 III)

M407S0 (国文学演習 IV)

M408S0 (国文学演習 V)

M409S0 (国文学演習 VI)

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科 : 文理学部文学専攻 (国文学) のみ

配当学年 : 3 学年以上

◆授業概要 前半は、国文学演習入門、万葉集入門、説話文学入門のコンテンツを視聴して、国文学の基礎や研究方法を学修する。後半は、課題設定してあるテーマについて、調査・研究して口頭発表、全体討論をする。

◆学修到達目標 演習を通して、調査・研究の方法、発表資料の作成、ディスカッションの仕方などを学修し、国文学を研究するために必要な基礎を身につけ、自分の意見や研究成果を発表できることを目標とする。

◆授業方法 e-ラーニングを利用したメディア授業である。前半は、メディアを利用しての基礎的な内容の講義である。後半は、数人でグループを作り、課題のテーマについてグループディスカッションにより調査・研究し、発表資料などを作成して発表する。発表についての全体討論を行う。司会者は、全体討論が円滑に進むように努める。

◆授業計画

	授業内容	はじめに(授業計画、教員紹介など)について講義する。
1回	事前学修	インターネットの環境、授業計画を確認しておくこと。
	事後学修	授業のねらいと構成などを確認しておくこと。
2回	授業内容	国文学演習入門について講義する。
	事前学修	グループディスカッション、発表報告・全体討論の形式であることを理解すること。
	事後学修	演習の基本的なことを確認しておくこと。
3回	授業内容	万葉集入門について講義する。
	事前学修	万葉集の基本的なことを確認し、各グループで発表について相談・準備を始めるここと。
	事後学修	万葉集入門で学修したことについて、万葉集のテキストで確認しておくこと。
4回	授業内容	説話歌入門について講義する。
	事前学修	参考文献などにより、説話歌について理解しておくこと。
	事後学修	事前学修内容と授業内容について照合して理解しておくこと。
5回	授業内容	テーマ1について、発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表の内容、全体討論の質問や意見を検討。リポート作成の準備をしておくこと。
6回	授業内容	テーマ2について、発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表の内容、全体討論の質問や意見を検討。リポート作成の準備をしておくこと。
7回	授業内容	テーマ3について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。リポート作成の準備をしておくこと。
8回	授業内容	テーマ4について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。リポート作成の準備をしておくこと。
9回	授業内容	テーマ5について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。リポート作成の準備をしておくこと。
10回	授業内容	テーマ6について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。リポート作成の準備をしておくこと。
11回	授業内容	テーマ7について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。リポート作成の準備をしておくこと。
12回	授業内容	テーマ8について発表、全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い、発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容、全体討論の質問や意見を検討。リポート作成の準備をしておくこと。

◆教科書 市販本『訳文 万葉集』森淳司編 笠間書院

◆参考書(参考文献等) 市販本『上代説話事典』 大久保・乾編 雄山閣

市販本『万葉集ハンドブック』 多田一臣編 三省堂

◆成績評価基準 発表 80 %, 全体討論 20 %

◆備考 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇哲学演習 MA (開講単位数:1 単位)

担当者:中澤 瞳

充当科目コード : P401S0 (哲学演習 I) , P402S0 (哲学演習 II)

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科 : 哲学専攻

配当学年 : 3 学年以上

◆授業概要 哲学演習 MA は、卒業論文制作に向けての演習授業である。この演習は、「哲学」演習という名前ではあるが、「倫理学」や「宗教学」の分野での卒業論文執筆を考えている学生にとっても有益である。なぜなら、本演習を通して、学ぶ論文の形式や作成方法は、非常に基礎的なものだからである。したがって、「哲学」専攻の学生のための「演習」と考えていただければと思う。

◆学修到達目標 この演習を通して、受講生は論文制作のための技術を学び、卒業論文の制作を進めていく。すでに卒業論文に着手している受講生の場合は、演習を通して、現在製作中の卒業論文を練り上げるのに役立てる。

◆授業方法 この演習は、講義と実践を組み合わせて行う。

◆授業計画

授業内容		
1回	事前学修	卒業論文でどのような題材を扱うか考える。
	事後学修	授業を復習し、卒業論文について理解を深める。また、授業の最後に提出した課題を検討する。
授業内容		
2回	事前学修	論文にはどのような特徴があるか、他の文章表現とは何が違うか考える。
	事後学修	手近にある、論文以外の色々な文章を読んで、論文という形式について理解を深める。
授業内容		
3回	事前学修	前回の授業を復習し、論文の特徴を改めて把握する。
	事後学修	授業を復習し、自分の卒業論文で扱う予定の題材を元に、論文の構成をイメージする。
授業内容		
4回	事前学修	前回の授業を復習し、論文の構成についての理解を深める。
	事後学修	自分の卒業論文の問題、主張、論拠を練り上げる。
授業内容		
5回	事前学修	自分の卒業論文の問題、主張、論拠をどのようなものにするか考える。
	事後学修	相互評価を通じて、他の人の問題と主張と論拠を参照し、自分の問題、主張、論拠を練り上げる。
授業内容		
6回	事前学修	文献を探すにはどのような方法があるか考える。
	事後学修	授業で取り上げた調査方法などを使用し、自分の卒業論文に必要な先行研究を調べる。
授業内容		
7回	事前学修	自分の意見を的確に相手に伝えるためには、どのような説明の仕方があるか考える。
	事後学修	説明の仕方に気をつけて、文章を書いたり、また他人の文章を読んだりする練習をする。
授業内容		
8回	事前学修	第4回を振り返り、自分の卒業論文の問題、主張、論拠を確認する。
	事後学修	最終発表で、アウトラインの提出があるので、今回の授業を復習し、自分の卒業論文の問題、主張、論拠をもとに、アウトラインの内容を掘り下げる。
授業内容		
9回	事前学修	注や参考文献表とはどのようなものか調べる。
	事後学修	授業を復習し、注や参考文献表を作成できるようにする。
授業内容		
10回	事前学修	第6回を振り返り、自分の卒業論文に必要な先行研究を改めて調査する。
	事後学修	参考文献の書き方を覚え、いつでも作成できるようにする。
授業内容		
11回	事前学修	パラグラフについて
	事後学修	文献を読むときには、パラグラフごとに読むこと意識し、また自分で文章を作成する際にも、パラグラフを意識して書けるようにする。
授業内容		
12回	事前学修	文章を短くすることと、要約との違いを考える。
	事後学修	第14回で要約の提出があるので、要約を作る練習をする。
授業内容		
13回	事前学修	批判的な視点をもつ
	事後学修	批判的な視点とはどのような視点なのか考える。
授業内容		
14回	事前学修	批判的な視点から読んだり、書いたりできるように練習する。
	事後学修	第11回、第12回を振り返り、パラグラフについての理解と要約の作り方を確認する。
授業内容		
15回	事前学修	相互評価を通じて、他の人の要約を参照し、わかりやすい要約とはどのような要約か考える。
	事後学修	第4回、第8回を振り返り、自分の問題、主張、論拠を確認し、またアウトラインの作成の仕方を確認する。
授業内容		
	事後学修	今回のアウトラインを土台として、卒業論文のアウトラインを深める。

◆教科書 特になし

◆参考書(参考文献等)

市販本	『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』 戸田山和久 NHK出版
-----	-----------------------------------

市販本	『新版 論理トレーニング』 野矢茂樹著 産業図書 2006年
-----	--------------------------------

市販本	『生命倫理のレポート・論文を書く』 松原洋子・伊吹友秀編 東京大学出版会 2018年
-----	--

◆成績評価基準 3回の発表と最終発表（相互評価が必要な場合はそれを含む）を中心に、受講状況、質疑応答内容などを加えて、総合的に評価する。

◆備考 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇日本史演習 MA (開講単位数:1単位)

担当者:鍋本 由徳

充当科目コード : Q401S0 (日本史演習 I) , Q402S0 (日本史演習 II)

※各自の履修状況により指定してください。

配 当 学 科 : 文理学部史学専攻のみ

配 当 学 年 : 3学年以上

◆授業概要 本演習は、日本史、特に近世史史料を読むために必要な技術を身につけるとともに、卒業論文を執筆する上での基礎技術をあわせて学ぶためのものです。本演習で準備している『民間省要』は、享保改革に対する批判や提言の書、という性格をもつ。享保改革期をめぐるさまざまな問題について考えるとともに、調べ方や史料解釈についても実践する。

◆学修到達目標 1. 日本史の研究論文を書くための基礎技術を身につける。2. 史料読み解力を養い、史料の使い方や評価の方法を身につける。3. 日本史史料を読む上で基礎知識を身につけ、積極的に学ぶ姿勢を身につける。

◆授業方法 時代背景や基礎知識を1~4章で学び、5章以後から演習形式となる。演習形式は各回で指示された課題を事前に作成し、ディスカッションボードや各章の討論ボードを使って議論する。基本的に『民間省要』を使うが、別途課題テキストを配布し、さまざまなタイプの史料を使った学修をおこなう。演習は「作業・質疑応答」によって実力を養うもので、各回での課題作業を欠かすことはできないため、日常的学修を心がけたい。

◆授業計画

回	授業内容	はじめに 近世文書読解の基礎知識
	事前学修	古文書・古記録を読む上での、「漢字仮名交じり文」などの特徴を調べる。
	事後学修	課題として提示予定の史料を読み、読み下しできるよう何度も読み返す。
回	授業内容	『民間省要』と田中丘隅
	事前学修	田中丘隅と『民間省要』について調べる。
	事後学修	自己点検で誤った箇所を重点的に再学修する。
回	授業内容	元禄～享保期の社会
	事前学修	貨幣経済の浸透にともなう社会変化について調べる。
	事後学修	自己点検で誤った箇所を重点的に再学修する。
回	授業内容	教員によるテキスト読解 第一「地方のこと」
	事前学修	事前に指示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	自身の読み下しと比較し、誤った箇所を重点的に復習する。
回	授業内容	「検見」について / 参考文献と歴史史料の区分
	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
回	授業内容	「年貢納入」について / 参考文献の種類と特徴
	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
回	授業内容	「田地売買」について / 先行研究整理の意味
	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
回	授業内容	「肥料や生産用具」について / 歴史資料の種類と調べ方基礎
	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
回	授業内容	「検見の手順」について / 歴史資料を読んでみる(1) 領主政策
	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
回	授業内容	「年貢早納・小物成」について / 歴史資料を読んでみる(2) 法令
	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
回	授業内容	「定免制」について / 歴史資料を読んでみる(3) 領民生活
	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
回	授業内容	「小作」について / 最終報告課題に向けての事前準備
	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。

◆教科書 事前に必要な史資料を配付する。

◆参考書(参考文献等) 必要に応じてディスカッションボードで紹介する。

◆成績評価基準 メディア授業受講状況(質疑応答、ディスカッション) 50%, 提出課題の評価50%。

◆備考 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。